

特記仕様書	
I 工事概要	
1 工事番号・名称	北新分団本部拠点施設建設（建築主体）工事
2 工事場所	甲府市北新一丁目6番9号
3 用途地域等	都市計画区域（ <input checked="" type="radio"/> ）内 ※市街化調整区域（ <input type="radio"/> ）外 用途地域（第1種中高層住居専用地域） 防火地域等（ <input type="radio"/> ）防火（ <input type="radio"/> ）準防火（ <input type="radio"/> ）指定なし（ <input checked="" type="radio"/> ）2.2条（ <input type="radio"/> ） その他の地域・地区（ <input type="radio"/> ）下水道供用開始区域（ <input type="radio"/> ）
4 主要用途	その他（消防団詰所）
5 敷地面積	82.57 m ²
6 工事の概要	A. 建築主体工事 B. 外構工事 C. D.
7 別途工事	北新分団本部拠点施設建設（電気設備）工事 北新分団本部拠点施設建設（機械設備）工事
8 その他	石綿等の取扱いについては、石綿障害予防規則（平成17年2月24日厚生労働省令第21号）（以下、「石綿則」という。）を遵守すること。
9 特記仕様書の範囲	特記仕様書は、本特記仕様書のほか以下の○印でも構成する。 ○ 構造特記仕様書 ○ 外構工事特記仕様書 ○ 植栽工事特記仕様書 ○ 電気設備工事特記仕様書 ○ 機械設備工事特記仕様書

II 建築工事仕様	
1. 共通仕様 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書(令和4年版)」(以下、「標準仕様書」という。)による。ただし、「標準仕様書」に記載されていない事項は、「公共建築改修工事標準仕様書(令和4年版)」(以下「改修標準仕様書」という。)及び「建築物解体工事共通仕様書(令和4年版)」(以下「解体共通仕様書」という。)による。	
2. 特記仕様 1) 項目は、番号に○印のついたものを適用する。 2) 特記事項は、 <input checked="" type="radio"/> のついたものを適用する。 <input checked="" type="radio"/> のつかない場合は※印のついたものを適用する。 <input checked="" type="radio"/> と <input checked="" type="radio"/> 印のついた場合は、共に適用する。 3) 特記事項に記載の()、< >及び[]内の表示番号は、それぞれ「標準仕様書」及び「改修標準仕様書」及び「解体共通仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。(ただし、表示番号はそれぞれの仕様書(令和4年版)のもので、参考とする。)	

章	項目	特記事項
1 一般事項	① 一般事項	○ 工事施工中に予期せぬ事態や疑義が生じた場合には、監督員に報告の上、指示に従うこと。 ○ 請負業者は、監督員と随時打合せを行い、工程の確認・調整及び工事の円滑な進捗をはかること。 ○ 施工体系図を現場に掲示すること。 ○ 工事着手前及び完成時に、以下に示す調査範囲の近隣家屋等の内外の状況（地盤、擁壁、内外壁、床、建具等）を調査・記録し、報告書を監督員に提出すること。 調査範囲 ※ 図示
	② 適用基準等	・ 建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 最新版） ・ 公共建築工事標準仕様書 建築工事編（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 最新版） ・ 公共建築改修工事標準仕様書 建築工事編（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 最新版） ・ 工事写真の撮り方 改定第2版（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修） ・ 建築構造設計基準（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 最新版）
	③ 概成工期	工事工期より 日 前 (1.2.1)
	④ 工事実績情報（コリンズ）の登録	※ 適用する（請負精算額が500万円以上の場合）(1.1.4) 受注時、変更時及び完了時にあらかじめ監督員の確認を受け、登録手続きを行い、工事カルテの受領書を、監督員に提出すること。 （請負額が2,500万円未満の場合は、受注時のみ） ・ 適用しない
	⑤ 発生材の処理等	発生材の処理 (1.3.8) ・ 引渡しを要するもの（ <input type="radio"/> ） ・ 特別管理産業廃棄物（ <input type="radio"/> ） 受入れ施設名・所在地(km) ・ 再生資源化を図るもの 種 類 受 入 施 設 名 所 在 地 (Km) 備 考 ・ セメント コンクリート塊 ・ アスファルト コンクリート塊 ・ 建設発生木材 ・ 建設汚泥 ・ 現場において再利用を図るもの（ <input type="radio"/> ） ・ その他の廃棄物（安定型）（ <input type="radio"/> ） 受入れ施設名・所在地(km) ・ その他の廃棄物（管理型）（ <input type="radio"/> ） 受入れ施設名・所在地(km) 上記の処理、処分は設計概算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、上記によらない場合は、監督員と協議すること。 また、処理、処分は先立ち処分場等の受け入れ可否を確認すること。

6. 電気保安技術者 7. 事故報告 8. 建築材料等 9. 室内の空気中の化学濃度の測定	・ 適用する ※ 適用しない (1.3.3)
	工事の施工中に事故が発生した場合は、直ちに監督員に通報するとともに、別に指示する「事故報告書」を指示する期日までに監督員に提出する。(1.3.10)
	材料の品質等 ※ 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能を有するものとし、その材料にJIS又はJASのマークの表示のある場合を除いて監督員の承認を受ける。 特定のものが特記された場合は、設計図書に規定するもの又は、これらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、監督員の承認を受ける。(1.4.2)
	ホルムアルデヒド仕様 使用する材料のホルムアルデヒド放散量は、次のとおりとする。 ホルムアルデヒド放散量 規制対象外 の場合の該当する建築材料 1) JIS及びJASのF☆☆☆☆品 2) 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 3) 次の表示のあるJAS適合品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用 d. ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用 (1.4.1)
	・ ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の測定 測定試料採取及び測定は、厚生労働省の「室内空気中化学物質の採取方法及び測定方法」の新築住宅の例に準拠するほか、拡散方式ではサンブラー製造所定める仕様により行う。(1.5.9)
	測定対象物質： ※ ホルムアルデヒド（濃度指針値0.08ppm） ※ スチレン（濃度指針値0.05ppm） ※ トルエン（濃度指針値0.07ppm） ※ エチルベンゼン（濃度指針値0.88ppm） ※ キシレン（濃度指針値0.20ppm） ※ パラジクロロベンゼン（濃度指針値0.04ppm） 測定対象室 ・ 図示 ○ 監督員の指示による。 測定箇所数 ・ 図示 ○ 2カ所 採取方法： 吸引方式または拡散方式とし、拡散方式では8時間採取する。 「標準仕様書」及び「改修標準仕様書」に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法とする。(8.4.3)(8.5.3)(13.2.3)(13.3.3)(13.4.3)(14.7.3)(16.13.5)
	・ 金属板葺 ○ 折板葺 ※ 30 ・ 粘土瓦葺 ・ アルミニウム笠木 地表面粗度区分 ・ II ○ III ・ ガラスブロック ・ 多雪地域の指定 ・ 有 ○ 無 ・ 押出成型セメント板外壁パネル
	※ 図示 ・ 現状平均地盤高
	・ 下表で技能士を適用することとした職種に、1級又は単一級技能士を配置する。(1.5.2) ※ 下表で技能士を適用することとした職種に、1級、2級又は単一級技能士を配置する。 下表で技能士を適用しないとした職種でも、技能士の配置に努めること。
	適用工事種別 適用 技能 士 検 定 職 種 (作業) 以下の該当工事 ○ 該当する作業がある以下の職種(作業)のすべて 仮設工事 ○ とび(とび作業) 鉄筋工事 ○ 鉄筋施工(鉄筋組立作業) コンクリート工事 ○ 型枠施工(型枠工事作業) ○ コンクリート圧送施工(コンクリート圧送工事作業) 鉄骨工事 ○ 鉄工(構造物鉄工作業) ○ とび(とび作業)

14. 工事写真の取扱いについて 15. 完成図等 16. 完成写真 17. 工事進捗状況の報告 18. 火災保険等 19. 環境対策及び再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法 20. 下請負員の提出 21. 下請施工体系の作成及び提出 22. 再生資源利用計画(実施)書及び再生資源利用促進計画(実施)書の提出 23. グリーン購入法 24. 設備工事との取合い	・ 電子媒体により納品すること。 ・ 納品時には、正副1部ずつを納品すること。 ・ 使用する媒体は、CD-Rとする。ただし、やむを得ない理由がある場合に限り、DVD-Rの使用も可とする。 ・ 電子媒体に対して必ずウイルスチェックを行うこと。 (ウイルス対策ソフトは特に指定しないが、最新のウイルスも検出できるように最新のデータに更新したものを利用すること。) ・ 電子媒体には以下の情報を明記すること。 ① 工事名称 ② 工事場所 ③ 契約番号 ④ 発注者担当部署名称 ⑤ 請負者名称 ⑥ 作成年月 ⑦ 枚数 ⑧ ウイルスチェックに関する情報 ⑨ CD-Rフォーマット形式 ⑩ 電子媒体の内容の原本性を証明するために、直接署名又は捺印を行う。 ・ 電子納品される写真データは、PDF形式、エクセル等で編集したもので、従来の印刷物写真と同様な確認ができるものとする。 ・ 写真データは、工程種別、撮影項目毎に分類し、工事の進捗に合わせて編集し、容易に確認できるファイル名・フォルダ名を付して整理すること。 ・ 工事写真の検査は、電子データで検査することを原則とするが、印刷物または電子データと併用で検査することも可能とし、その範囲は受発注者との協議による。 ・ 検査に使用する機器の準備と操作は、受注者が行うことを原則とする。 ・ やむを得ない理由により、電子納品できない場合は、受発注者との協議により、従来の印刷物による納品も可とする。 ・ ここに定めなきことは、受発注者との協議により決定する。
	※ 作成する ・ 作成しない ※ 2つ折製本 2部(A2版) ※ 電子媒体 1部(CD-R) ※ 施工計画書 1部 ※ 施工図 1部 ※ 保全に関する資料 1部
	※ 作成する ・ 作成しない 撮影箇所及び撮影方法は、下記による
	分類 規格 撮影箇所数 部数 原簿の大きさ(mm) カラーキャビネ版 外部(3) 内部(各室) ※ 2・6 100×125以上 カラースライド 同 上 ・ 1 24×36以上 カラーパネル 外部() 内部() ・ 0・2 寸法 400×325(縁なし) 電子データ ※ 1 200万画素以上・300dpi以上 電子データについては、CD-Rにて作成し、納品を行う
	請負者は発注者が必要と認めた工事については、所定の様式により、「工事報告書」を毎月一回監督員に報告する。 報告方法：電子メール、報告書 工事目的物及び工事材料等について、次により保険に付す。 保険の種類 ・ 火災保険 ※ 建設工事保険 保険期間 ※ 工事着手から完成工期に14日を加えた日までとする。 環境対策及び再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法を書面により、明確にすること。 (建設機械については、排ガス対策型の建設機械の使用を原則とする。)
	適正な下請負契約を確認するため、下請負員を提出する場合は次の書類を添付すること。 ・ 下請負契約書(請書等)の写し ・ 下請負業者の建設業許可証の写し ・ 元請業者における「指定建設業監理技術者資格者証」の写し
	「甲府市暴力団排除条例の施行に伴う、公共工事からの暴力団排除」を目的として、受注者は、下請負業者を用いる場合には、金額、工種の如何にかかわらず、末端の下請負業者まで反映させた、「下請施工体系図」を作成し、達漏、誤謬が無いよう記載内容を十分確認の上、達漏なく監督員に提出するものとする。 また、提出した「下請施工体系図」の内容に変更が生じた場合は、その都度、変更するものとし、達漏なく監督員に提出するものとする。 なお、提出は打合せ簿によるものとする。但し、メールによる提出も可能なものとし、この場合は後日、打合せ簿を提出するものとする。
	本工事は、建設副産物実態調査の対象工事であり、請負者は国土交通省のホームページから「建設リサイクル報告様式(計画書・実施書)(EXCEL様式)」の最新バージョンをダウンロードし、作成出力した再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を出し、1部(紙)を施工計画書に添付し監督員に提出するものとする。(以前より使用していたクラスを使用した様式での提出はH30センサスに対応していないため不可) 工完了後は速やかに、当初入力した工事データを実績値に修正した再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を出し、1部(紙)を完成書類に添付し、また、電子データを電子媒体(CD、DVD、FD等)により監督員に提出するものとする。 なお、入力した電子データは自社で1年間保管するものとする。 ※入力時の最新版を国土交通省のホームページからダウンロードして入手すること。 URL http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/recycle/d03project/d0306/page_03060101credastop.htm
	「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」(グリーン購入法)に基づき、「山梨県グリーン購入の推進を図るための方針」より定められた次の資材に関しては、同法の判断基準を満たすものの採用に努め、建設機械については原則使用とすること。 施工範囲 各工事の区分表による。 施工図 設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出して監督員の承認を受ける。

2 仮設 3 土 4 地 業 工 事 項	① 仮囲い ※ 設ける 仮囲いの位置及び延長は図示による。 ・ 万能鋼板(H=) ・ 波形鉄板(H=) ・ 単管シート(H= 2.0 m) ・ シートゲート(H= , W=) × 箇所 ・ 設けない ・ シート張り ・ 金網養生
	② 危害防止
	③ 交通誘導員
	④ 監督員事務所 ○ 配置する ・ 配置しない ○ 設けない(請負者事務所に打合せ会議室を確保する) ・ 設ける (2.3.1)
	⑤ 工事表示板 ・ 設置する 設置枚数 1枚
	⑥ 工事用水 構内既存の施設 ○ 利用できる(※有償・無償) ※ 利用できない
	⑦ 工事用電力 構内既存の施設 ○ 利用できる(※有償・無償) ※ 利用できない
	⑧ 工事用通路 ※ 指定しない ・ 指定する(図示)
	⑨ 足場等 足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン(厚生労働省平成21年4月策定)」によるものとし、設置については「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」及び「働きやすい安心感のある足場に関する基準」によること。(2.2.4)
	10. その他の仮設
3 土 工 事 項	① 戻戻し及び盛土の種類 種別 ・ A種 ※ B種 ・ C種 ・ D種 (3.2.3)(表3.2.1) C種の場合 建設発生土受入数量 m ³ 発生場所
	② 建設発生土の処理 ○ 構外に搬出し適切に処理する。(3.2.5) ・ 構外指示の場所に搬出する。 受入れ施設名・所在地(km) ・ 構内指示の場所に敷きならす。 ・ 構内指示の場所にたい積する。
	③ 既成コンクリート杭 杭の種類 ・ プレストレストコンクリート杭(JIS規格品) (4.3.2)(4.4.2) ・ A種 ・ B種 ・ C種 ※ 構造図による (4.3.2)
	試験杭
	本杭
	継手 ※ アーク溶接継手又は建築基準法の規定に基づき認定された無溶接継手 (4.3.6)(4.4.5)
	先端部形状 ・ 閉塞平型 ・ 開放型 (4.3.2)(4.4.2)(表4.4.2)(図4.4.1)
	杭の施工法 ・ 掘削打撃併用工法 ブレポーリングの掘削深さ mのレベルまで 杭先端予定レベルの上 mのレベルまで オーガー径 杭径-50mm程度 (4.3.3)(4.4.3)
	・ セメントミルク工法 (4.3.4)(4.4.3) ・ 特定埋込杭工法 (4.3.5)(4.4.4) (旧建築基準法第38条の規定に基づき認定された工法)
	杭打機の種類 ハンマーの種類 ※ 油圧バールハンマー ・ ドロップハンマー バイロドライバー ※ 三点支持式クローラークレーン
騒音・振動の測定 ・ 行う ※ 行わない	
④ 場所打ちコンクリート杭 コンクリートの種別 ・ A種 ・ B種 (4.5.3)(表4.5.1) 掘削工法 ・ アースドリル工法 ※ 安定液使用 (4.5.4) ・ リバース工法 ・ オールケーシング工法 孔内の水張り ※ 行う ・ 行わない	
⑤ 土間スラブ(土間コン)下断熱材 ※ 設ける A種ポリスチレンフォーム3種B厚25mm敷き込みとし、 地中梁がある場合は、300mmのみみとする。 ・ 設けない	
⑥ 砂利地業 ※ 設ける A種ポリスチレンフォーム3種B厚25mm敷き込みとし、 再生クラッシュラン (4.6.2~3)	

摘要	月 日		管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	図面番号
							北新分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	A - 03
							建築特記仕様書(1)	
							縮尺 A-2 NOSCALE	



株式会社 イズ
TEL 055 (226) 8888(代)
FAX 055 (226) 5727

一級建築士 長田 孝三 第123273号
一級建築士事務所 第1- 031039号
E-mail : esse@coral.plala.or.jp

作製 令和 4年 12月 20日
図面名称

7. 金属成形板張り	種別 () (14.6.2)(14.6.3)	表面処理 () ※ 割付図を作成し監督員の承認を受ける。 ※ 伸縮調整接合部 設ける 設けない			
	8. アルミニウム製立木	表面処理 ※ B-1種 B-2種 (14.7.2)(表14.7.1) ※ 隅角部及び突出部の役物の使用 ※ 使用する (立木本体製作所の仕様による。)			
	9. 手すり及びタラップ	(14.8.2)(14.8.3)			
	10. 体育館の鋼製床下地材	※ JIS A 6519 のJIS表示認証製品			
	15. セルフレベリング材	・ せっこう系 ・ セメント系 (15.4.2)(表15.4.1)			
	② 仕上げ塗材仕上げ	(15.5.2)(表15.5.1~2)			
	規格名称	種類(呼び名)	仕上の形状	工法	上塗り材
	薄付け仕上げ塗材	・ 外装薄塗材 E ・ 内装薄塗材 E	・ 砂壁状 ・ 砂壁状 ・ じゅらく ・ ゆず肌	※吹付け ・ ローラー	
	厚付け仕上げ塗材	・ 外装厚塗材 C ・ 内装厚塗材 C ・ 外装厚塗材 E		※吹付け ・ こて	
	※ 複層仕上げ塗材	・ 複層塗材 CE ※ 複層塗材 E ・ 複層塗材 RS ・ 複層塗材 RE ・ 複層塗材 SI ○ 防水形 ・ 複層塗材 E ・ 防水形 ・ 複層塗材 RS	○ ゆず肌 ・ 凸部処理 ・ 凸凹模様	※吹付け ・ ローラー	溶剤 ※水系・溶剤系 ・ 弱溶剤系 外観 ※つやあり ・ メタリック 樹脂 ※アクリル系 ・ シリカ系 ・ ポリウレタン系 ・ アクリル ・ シリコン系 ・ フッ素系
軽量骨材仕上げ塗材	・ 吹付用軽量塗材 ・ こて塗用 ・ 軽量塗材		・ 吹付け ・ こて塗り		
3. ロックワール吹付け (耐火被覆は、7章による)	複装仕上げ塗材の耐熱性	1種 2種 ※ 3種	吹付け厚さ(mm) ※ 10	(15.7.3)	

16. 鋼製建具	簡易気密型ドアセット (16.4.2)(16.4.4)(表16.4.1)(表16.4.2) ※ 使用する (適用箇所は図示とする) 気密性 ※ A-3 水密性 ※ W-1 使用しない
4. 鋼製軽量建具	簡易気密型ドアセット (16.5.2~4)(表16.5.1) ※ 使用する (適用箇所は図示による) 気密性 ※ A-3 使用しない
6. ステンレス製建具	戸の鋼板 ※ 表面処理亜鉛めっき鋼板 ・ ビニル被覆鋼板 ・ カラー鋼板
7. 木製建具	標準型鋼製軽量建具 ※ 使用する 使用しない (16.5.6)
8. 木製建具	標準型鋼製軽量建具の小窓枠、ガラリ ※ 鋼製 アルミ製
9. 自動ドア開閉装置	簡易気密型ドアセット (16.6.2~5) ※ 使用する (適用箇所は図示とする) 気密性 ※ A-3 水密性 ※ W-1 使用しない
10. 重量シャッター	外部に面する建具の耐風圧性 ※ S-4 S-5 表面処理 HL 鋼板の曲げ加工 ※ 普通曲げ かつ出し曲げ
11. 軽量シャッター	建具材の加工、組立時の含水率 A種 ※ B種 C種 かまち戸の樹脂 かまちは杉上小節程度 棧、鏡板は杉無節程度 ふすまの上張り ※ 新島の子程度又はビニル紙程度 ふすまの種類 ※ 戸ふすま 在来型 チップ型
12. オーバーヘッドドア	簡易気密型ドアセット (16.6.2~5) ※ 使用する (適用箇所は図示による) 気密性 ※ A-3 水密性 ※ W-1 使用しない
13. ガラス	ガラスの留め材 ※ シーリング ガスケット (可動アルミ建具に限る) 防火戸のガラスの留め材は建築基準法の認定を受けたシーリング材とする。 ガラスの溝幅については、標仕(表16.13.1)による。ただし強化ガラス、合わせガラス及び倍強度ガラスの溝幅は図示による。
14. ガラスブロック(中空)	複層ガラスの保証期間は引き渡し日から10年間とし、メーカー保証書を提出する。
15. ガラス	JISによる区分 (16.14.5)
16. 鋼製建具	標準型鋼製建具及び標準型軽量鋼製建具(標準型共)のドアクローザー、シンジガー箱錠は公共工事標準型とする。
17. カテンウォールの性能	カーテンウォール種別、材種、耐風圧性、耐震性、水密性、気密性、耐火性、耐温度差性、遮音性、断熱性、材質等性能の確認方法、シーリング材、構造ガasket、ガラス、断熱材料、枠見込み、表面仕上げ
18. 一般事項	屋内の壁及び天井の塗装の仕上げは、建築基準法に基づく基材同等の認定のあるものとする。
19. 自動ドア開閉装置	マスターキーの作成 ○ 要 不要 (既存マスターキーで施錠可能とする。)
20. 重量シャッター	シャッターケース、耐風圧性能、開閉方式、保護装置
21. 軽量シャッター	シャッターケース、耐風圧性能、開閉方式、保護装置

18. 塗装工事	5. クリアラッカー塗り (CL) ※ A種 ※ B種 (18.5.2)
6. アクリル樹脂非分散系塗料塗り (NAD)	※ A種 ※ B種 (18.6.2)
7. 耐熱性塗料塗り (DP)	上塗りの等級 (18.7.2~3)(表18.7.1~2) 鉄鋼面 ※ 1級 2級 3級 亜鉛めっき鋼面 ※ 1級 2級 3級
8. つや有り合成樹脂エマルジョン塗り (EP-G)	つや有り合成樹脂エマルジョン塗り (18.8.2~4) コンクリート・モルタル・プaster・石こうボード・その他のボード面 ※ A種 ※ B種 木部(屋内)(多孔質広葉樹を除く) ※ A種 ※ B種 鉄鋼面(屋内) ※ A種 ※ B種
9. 合成樹脂エマルジョン塗り (AE-P)	合成樹脂エマルジョンペイント塗り (18.9.2) コンクリート・モルタル・プaster・石こうボード・その他のボード面 ※ A種 ※ B種
10. エマルジョン模様塗料塗り (EP-T)	合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り (18.10.2) コンクリート・モルタル・プaster・石こうボード・その他のボード面 ※ A種 ※ B種
11. ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)	木部のウレタン樹脂ワニス塗り (18.11.2) ※ A種 ※ B種
12. ラッカーエナメル塗り (LE)	木部のラッカーエナメル塗り (18.12.2) ※ A種 ※ B種
13. 木材保護塗料塗り (WP)	木部の保護塗料塗り (18.14.2) ※ A種 ※ B種
19. 内装	JIS A5705のJIS表示認証製品 (19.2.2)(19.2.3)
20. 化粧ビニル床シート	JIS A5705のJIS表示認証製品で、表面は印刷シートに透明表層を有した木目又は石目調のもの
21. ビニル床タイル	JIS A5705のJIS表示認証製品 (19.2.2)(19.2.3)
22. ビニル床シート・ビニル床タイルの特殊機能	帯電防止 ・ 帯電防止性能評価 (JIS A 1445) 1.2~3.1程度 又は耐電圧 (JIS L 1023)3kV以下 ・ 帯電防止性能評価 (JIS A 1445) 3.2~5.1程度 又は漏えい抵抗値 (JIS A 1454)0.1×1010オーム未満 ・ 帯電防止性能評価 (JIS A 1445) 5.2以上 又は漏えい抵抗値 (JIS A 1454)0.1×107オーム未満
23. 視覚障害者用床タイル	帯電荷重 JIS A 1454によるへこみ試験、残留へこみ試験、滑り性試験、層間剥離強度試験(発泡層のあるビニルシートのみ)およびキヤスター試験等の試験後異常がないこと。
24. ビニル幅木	材種 ※ 軟質 硬質 溶接 (19.2.2) 高さ(mm) ○ 60 ※ 75 ○ 100 厚さ(mm) 1.5 ※ 2.0
25. カーベット敷き	タフテッドカーベット (19.3.3)(19.3.4)(表19.3.2)
26. フローリング張り	単層フローリング (19.5.2~3)(19.5.5~7)(表19.5.3~4)

設計概要			
工事名称	北新分団本部拠点施設建設（建築主体）工事		
地名・地番	甲府市北新一丁目6番9号		
建築主住所・氏名	甲府市丸の内一丁目18番1号 甲府市 甲府市長 樋口 雄一		
主要用途	その他（消防団詰所）	工事の種類	新築工事
構造・規模	鉄骨造2階建て	前面道路	県道天神平甲府線 幅員8.95m
都市計画区域	都市計画区域内	計画道路	宝二丁目北新線都市計画道路 計画幅員16m
用途地域	第一種中高層住居専用地域	防火地域	指定なし 22条地域
その他の地域地区	下水道供用開始区域	道路斜線制限	1.25
建蔽率	42.2% (58.9%) < 60% (指定)	容積率	82.4% (117.9%) < 200% (指定)
敷地面積	82.57 m ² (計画道路部除く57.73 m ²)	床面積	延床面積：68.10 m ² 1階：34.05 m ² 2階：34.05 m ²
建築面積	34.05 m ²		
最高の高さ	7.480 m	最高の軒の高さ	7.330 m
別途工事			

外部仕上表	
屋根	カラーG L 鋼板 t=0.6 ルーフデッキ 山高=85.88（不燃性断熱材裏打貼）、換気面戸、折版谷用雪止付雪止めアングル2段(亜鉛メッキ品) 片棟包・ケラバ包： カラーG L 鋼板 t=0.6加工
軒裏	ルーフデッキ（不燃性断熱材表し）
樋	軒樋：硬質塩ビ製（カラー） W=150 ・ 縦樋：Φ75 硬質塩ビ製（カラー）
外壁	C形鋼縦胴縁下地 A L C版 t=50 横張り 防水型複層塗材 E 吹付
地覆	コンクリート打ち放し 補修仕上 天端：設計GL+400
建具	アルミサッシ（A L C用） 可動網戸 軽量手動シャッター
外部雑工事	ステンレス箱文字 200角×10文字（甲府市消防団 北新分団） 窓上庇：アルミ製規格品 D=90、D=165、D=600 ダイヤル式キーボックス（壁面指定場所固定） キーブロック I 型同等
外構工事	車庫出入口：コンクリート舗装 t=150（タテヨコともD-13@200）/路盤再生クラッシュャーランRC-40 T=300 伸縮目地：歴性質目地 犬走：コンクリート舗装 t=150（ワイヤメッシュ Φ6-□150）伸縮目地：歴性質目地 路盤 - RC40~0 t=150 建物周囲(3方)：砂利敷き均しt=60/防草シート敷 消火用ホース乾燥塔： 電動ウインチ 12本吊（地上12 m） DP-AU型 同等品 出動灯ポール自立型(電気設備工事)

内部仕上表		※仕上・下地・その他全てF☆☆☆☆及び規制対象外を使用する				※小屋裏・天井等の下地の建材は規制対象外の建材を使用する						
階	室名	床		巾木		腰壁		壁		天井		備考
			F H		H					廻り縁	C H	
1階	車庫	コンクリート金ゴテ直押え クラック誘発目地 15×20（シーリング処理）	GL+150 +90	ソフト巾木	100	—	—	EP塗装/強化石膏ボード (GB-F) t=15 / LGS 鉄骨露出部：SOP仕上(壁仕上取合い部：塩ビ見切り)	デッキプレート現し(亜鉛メッキ) 鉄骨露出部：SOP仕上	—	4,200 4,290	整理棚(3段) 木製壁面棚 D=300 防火服掛け用フック換気扇・給気ガラリ(機械設備工事) 車止め(規格品) 消火器(粉末10号)
	便所	コンクリート金ゴテ直押え	GL+150	ソフト巾木	100	—	準不燃ビニールクロス貼り /シーリング石膏ボード (GB-S) t=12.5 / LGS	化粧石膏ボード (GB-D) t=9.5 (910×455)張 / LGS	塩ビ製	—	2,500	洋風便器・換気扇(機械設備) ライニング天板：ポストフォーム 小物棚 D=250
	更衣	コンクリート金ゴテ直押え	2SL+160	ソフト巾木	100	—	準不燃ビニールクロス貼り /石膏ボード (GB-R) t=12.5 / LGS	準不燃ビニールクロス貼り /石膏ボード (GB-R) t=9.5 / LGS	塩ビ製	—	2,500	床見切 (SUS)
	階段	踏面：防滑性階段用床材貼 t 2.5 / モルタル金鍍押え 蹴上：SOP塗装 / 鉄骨		ソフト巾木 ササラ：SOP塗装 / 鉄骨		—	準不燃ビニールクロス貼り /強化石膏ボード (GB-F) t=15 / LGS	化粧石膏ボード (GB-D) t=9.5 (910×455)張 /強化石膏ボード (GB-F) t=15 / LGS	塩ビ製	—	2,500	下足・スリッパ入れ 18人用・見え掛り部 ポリ合板フラッシュ 樹脂製手摺・ノンスリップ：ステンレス(中空ビニール入り)
2階	待機兼会議室	ビニル床シート貼 t=2.0 / モルタル金鍍押え	2SL+160	ソフト巾木	100	—	準不燃ビニールクロス貼り /石膏ボード (GB-R) t=12.5 / LGS	化粧石膏ボード (GB-D) t=9.5 (910×455)張 / LGS	塩ビ製	—	2,500	ホワイトボード W1800×H900 消火器(粉末10号) ビクチャーレール(南西壁面上部)・レール下部額縁受け棧木・天井点検口(アルミ製 450角) 横型ブラインド(スラット巾 25) 給気ガラリ・換気扇・空調機(機械設備)
	湯沸スペース	ビニル床シート貼 t=2.0 / モルタル金鍍押え	2SL+160	ソフト巾木	100	—	準不燃ビニールクロス貼り、一部キッチンボード貼 /石膏ボード (GB-R) t=12.5 / LGS	化粧石膏ボード (GB-D) t=9.5 (910×455)張 / LGS	塩ビ製	—	2,500	システムキッチン W=1650 (IHヒーター) +上部吊戸棚 W900 ブーツ型換気フード 給気ガラリ・換気扇(機械設備)
	便所・手洗	ビニル床シート貼 t=2.0 / モルタル金鍍押え	2SL+160	ソフト巾木	100	—	準不燃ビニールクロス貼り /石膏ボード (GB-R) t=12.5 / LGS	化粧石膏ボード (GB-D) t=9.5 (910×455)張 / LGS	塩ビ製	—	2,500	小物棚：ポストフォーム D=250 洋風便器・手洗器・鏡・換気扇(機械設備)
	収納	ビニル床シート貼 t=2.0 / モルタル金鍍押え	2SL+160	ソフト巾木	60	—	耐水合板 (I類) t=12 / LGS	耐水合板 (I類) t=5.5 / LGS	木製 18×30	—	2,500	棚 2段

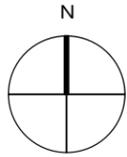
不燃認定番号	石膏ボード (GB-R) t=12.5・15	不燃	NM-8619	シーリング石膏ボード (GB-S) t=12.5	準不燃	QM-9826	準不燃ビニールクロス	準不燃	QM-9412
	石膏ボード (GB-R) t=9.5	準不燃	QM-9828	珪酸カルシウム板 (FK)	不燃	NM-8578	キッチンボード 火山性ガラス質複層板 UV塗装 同等品	不燃	NM-1802 同等
	化粧石膏ボード (GB-D) t=9.5	準不燃	QM-9824						
	強化石膏ボード (GB-F) t=15	不燃	NM-8615	ガルバリウム鋼板	不燃	NM-8697			

防火構造認定番号		
外壁	ALC版 t=50（鉄骨胴縁下地）	PC030NE-9080

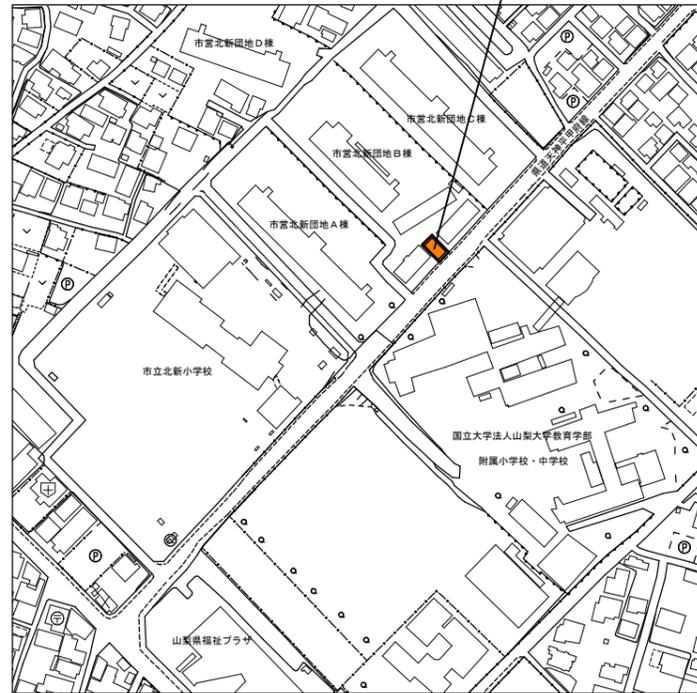
断熱材	
外壁	硬質ウレタンフォーム t=20 (A種1)
2階天井	高性能グラスウール (16K) t=100

壁下地 LGS	
一般間仕切	W=65
外壁廻り下地	1階：W=65 2階：W=45

摘要	月日					 株式会社 イズ 一級建築士 長田 孝三 第123273号 一級建築士事務所 第1- 031039号 甲府市飯田4丁目7-14 TEL 055 (226) 8888(代) FAX 055 (226) 5727 E-mail : esse@coral.plala.or.jp	管理建築士 検図者 設計者 担当者 工事名称 北新分団本部拠点施設建設（建築主体）工事 作製 令和 4 年 12 月 20 日 図面名称 設計概要書、内・外部仕上表 縮尺 A-2 NONSCALE	図面番号 A - 07



工事場所：甲府市北新一丁目6番9号



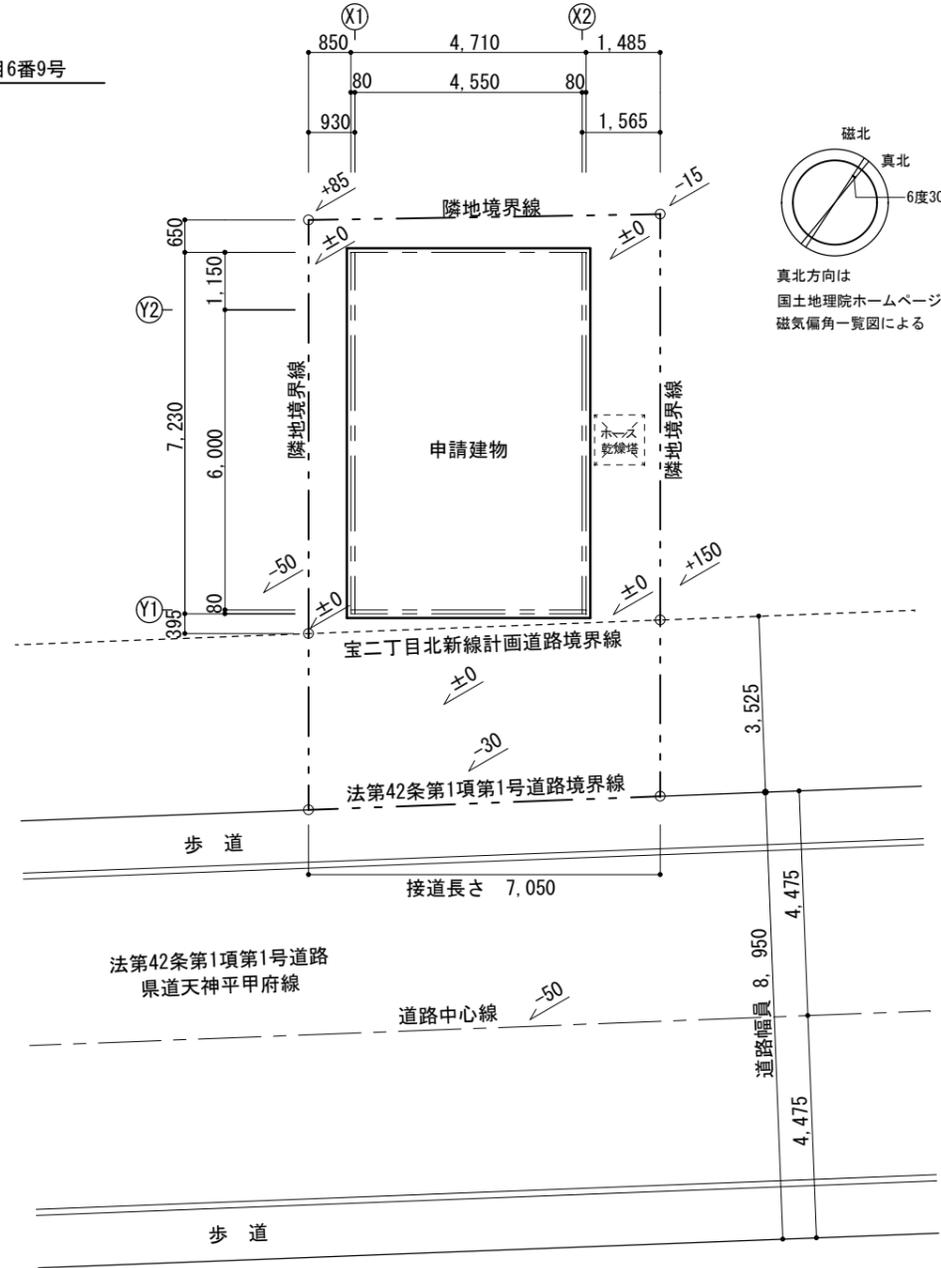
案内図 S=NOSCALE

【特記事項】

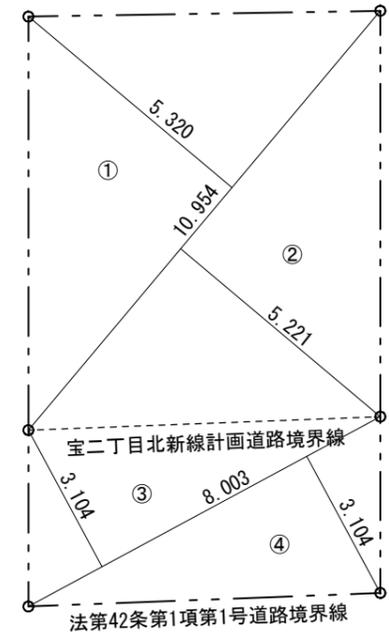
- ・水道法第16条に適合
- ・給排水経路については機械設備図による
- ・法56条の検討

道路斜線：道路幅員 8.95m × 1.25 = 11.187m > 建物高さ 7.48mにより適合

隣地斜線：建物高さ20m以下により適合



配置図 S=1/100



敷地求積図 S=1/100

敷地面積求積表

番号	底辺	高さ	倍面積	面積
①	10.954	5.320	58.275280	29.137640
②	10.954	5.221	57.190834	28.595417
小計				57.733057
③	8.003	3.104	24.841312	12.420656
④	8.003	3.104	24.841312	12.420656
小計				24.841312
計				82.574369
敷地面積				82.57㎡

摘要	月日			

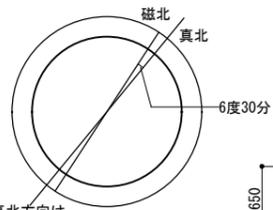
ESSE INC. 株式会社 イズ
TEL 055 (226) 8888 (代)
FAX 055 (226) 5727
甲府市飯田4丁目7-14

一級建築士 長田 孝三 第123273号
一級建築士事務所 第1-031039号
E-mail: esse@coral.plala.or.jp

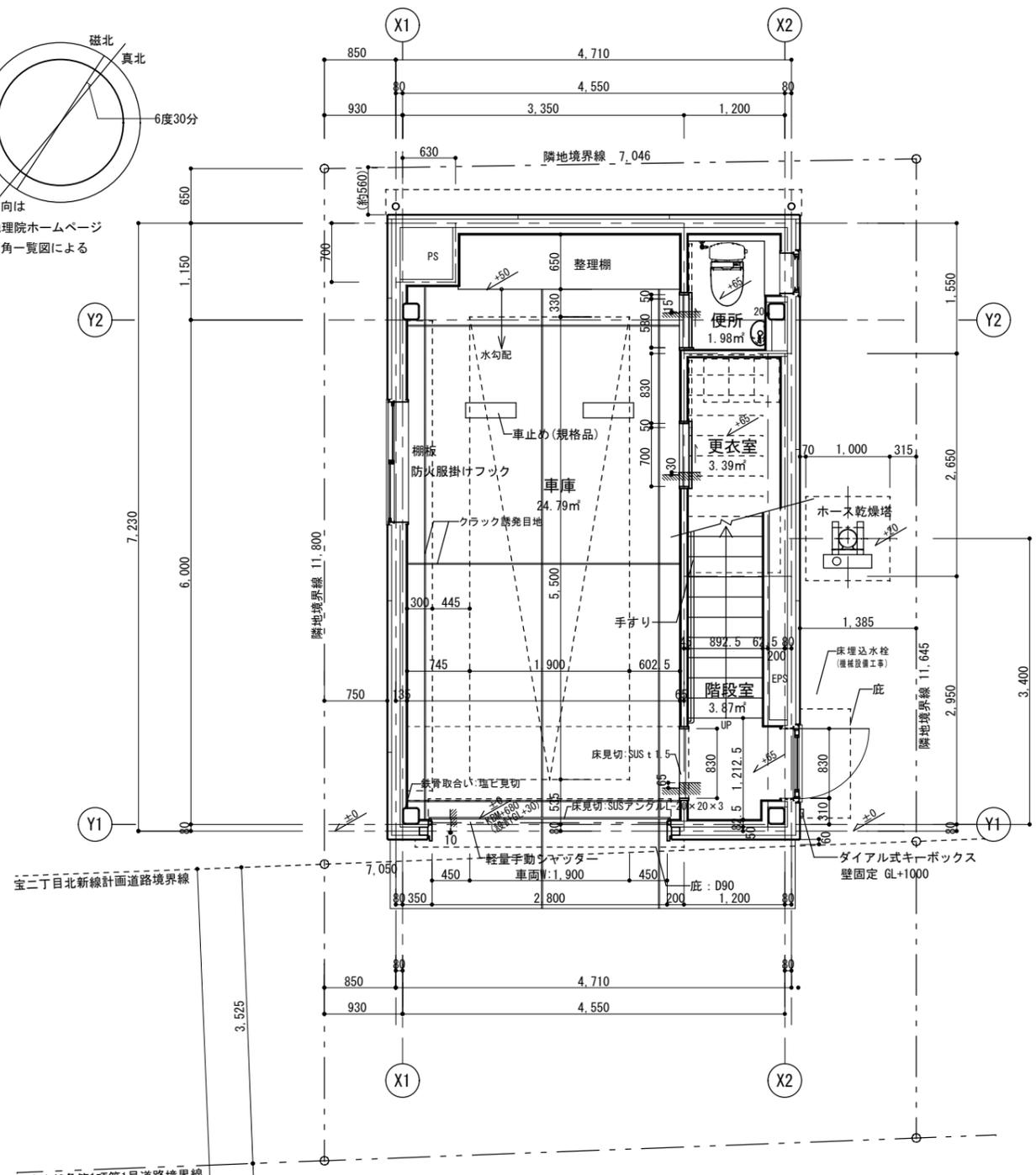
管理建築士 検閲者 設計者 担当者
作製 令和4年12月20日

工事名称 北新分団本部拠点施設建設(建築主体)工事
図面名称 案内図、配置図、敷地求積表
縮尺 A-2 S=1:50-1:100

図面番号 A-08

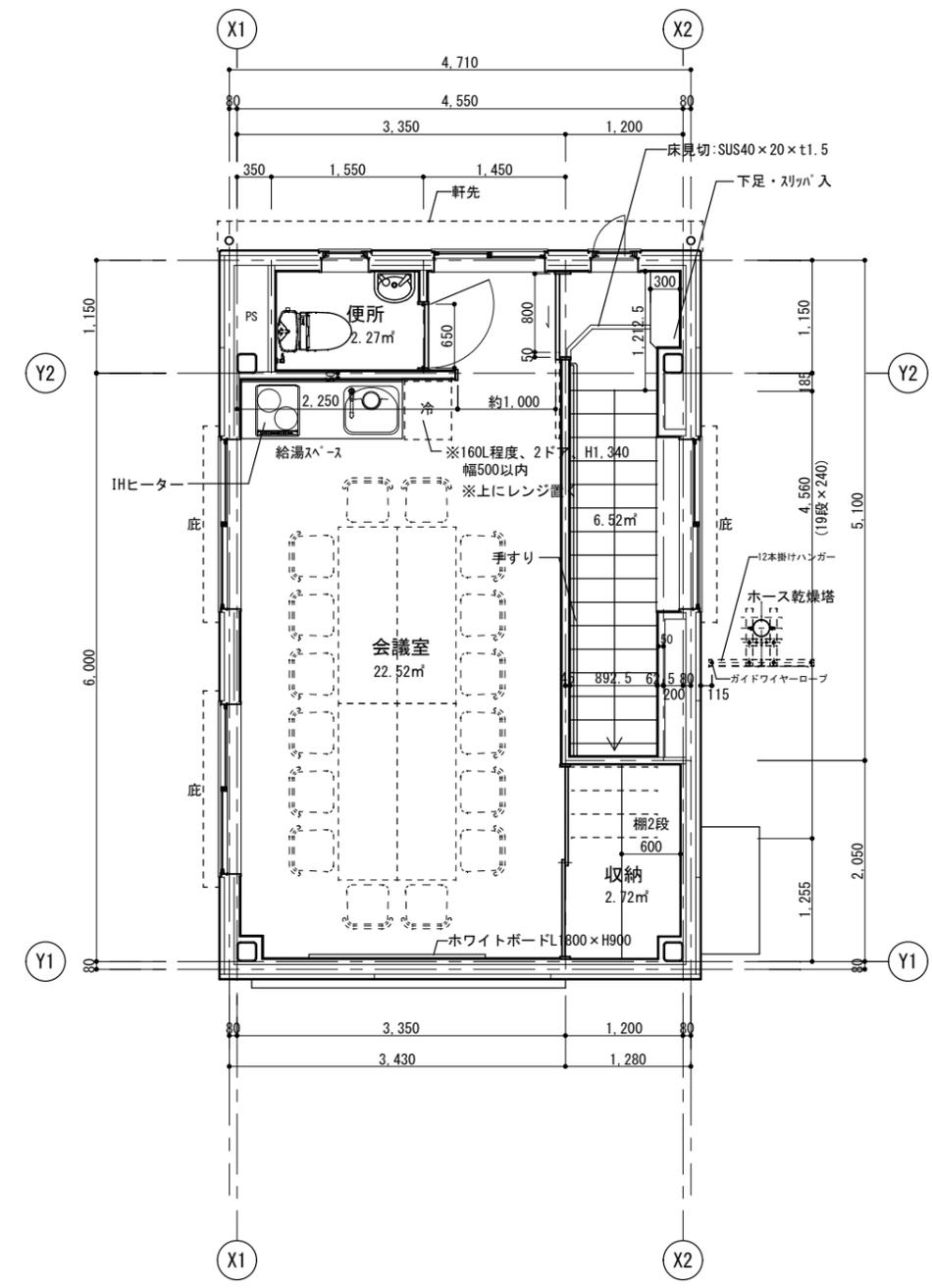


真北方向は
国土地理院ホームページ
磁気偏角一覧図による



1階平面詳細図

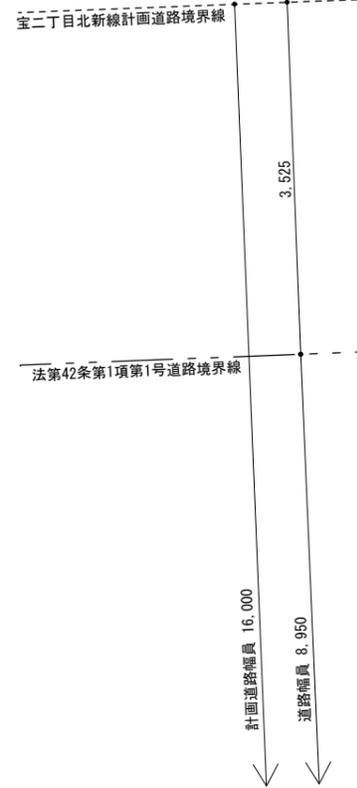
LGS下地：外壁部 W65、間仕切り下地 W65



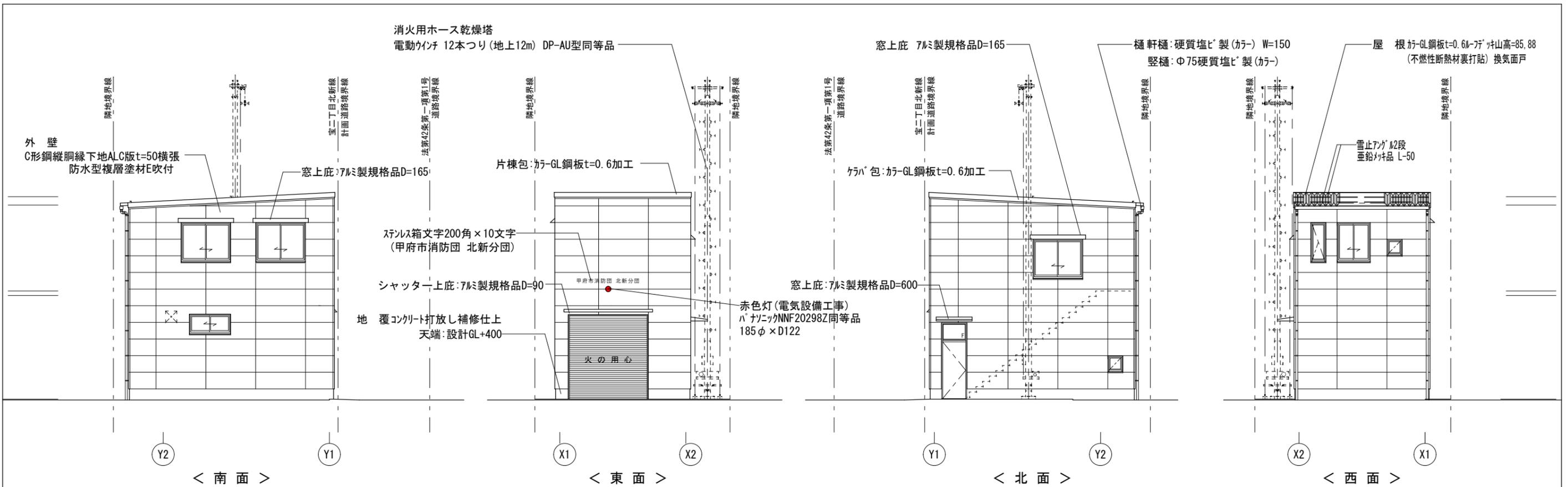
2階平面詳細図

LGS下地：外壁部 W45、間仕切り下地 W65

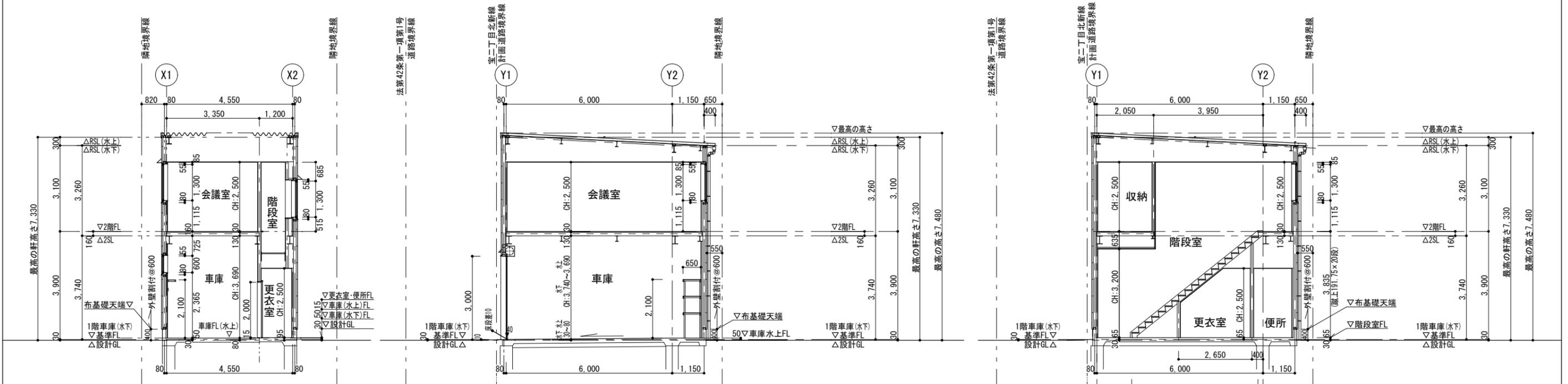
階段寸法	
踏面	240
蹴上	191.75
階段巾	892.5
手すり付	



法第42条第1項第1号道路
県道天神平甲府線

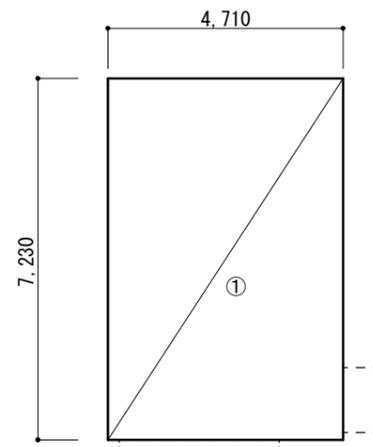


立面図

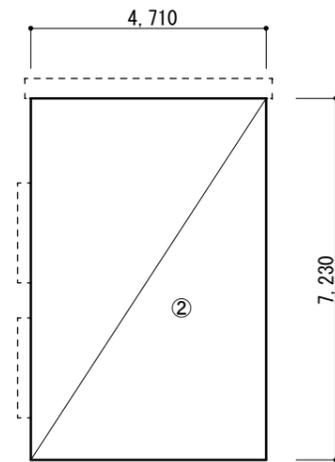


断面図

摘要	月日	ESSE INC. 株式会社 イズ TEL 055 (226) 8888(代) FAX 055 (226) 5727 甲府市飯田4丁目7-14	一級建築士 長田 孝三 第123273号 一級建築士事務所 第1- 031039号 E-mail : esse@coral.plala.or.jp	管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	北新分団本部拠点施設建設 (建築主体) 工事	図面番号 A - 10
							作製	令和 4年 12月 20日		



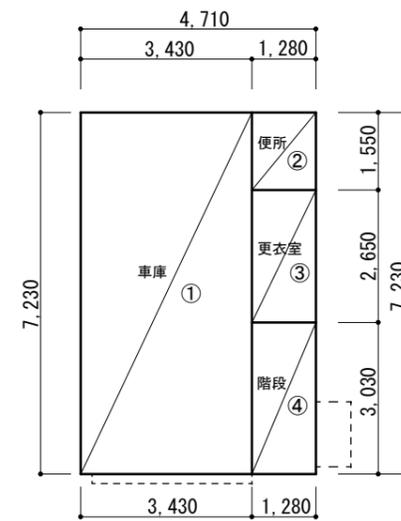
1階求積図 S=1/100



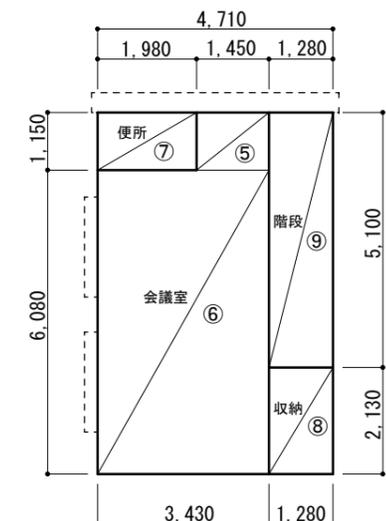
2階求積図 S=1/100

1階床面積表				2階床面積表							
①	4.710	×	7.230	=	34.0533	②	4.710	×	7.230	=	34.0533
小計					34.0533	小計					34.0533
1階床面積					34.05㎡	2階床面積					34.05㎡
1階床面積		34.05㎡	+	2階床面積	34.05㎡	延べ床面積					68.10㎡

建築面積算定						
1階床面積	34.05㎡	+	建築面積算入部分	0㎡	=	34.05㎡

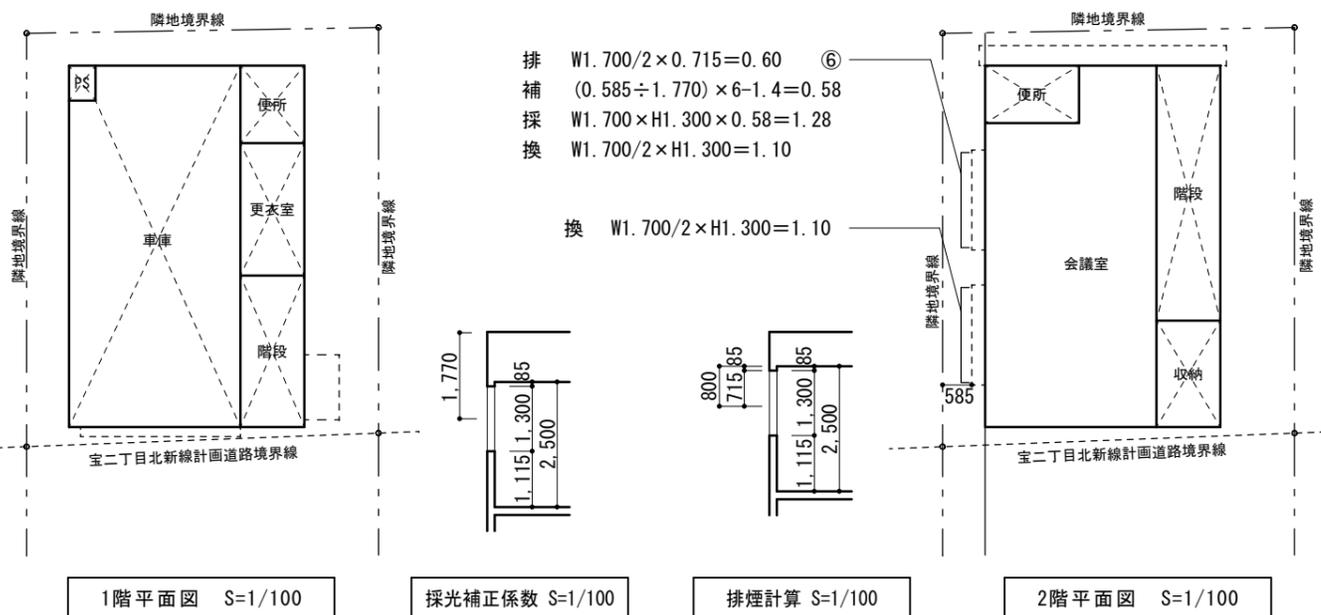


1階求積図 S=1/100



2階求積図 S=1/100

階	室名	番号	計算	床面積(㎡)	階	室名	番号	計算	床面積(㎡)	
1	車庫	①	3.430 × 7.230 =	24.7989	2	会議室	⑤	1.450 × 1.150 =	1.6675	
	便所	②	1.280 × 1.550 =	1.9840		⑥	3.430 × 6.080 =	20.8544	22.52	
	更衣室	③	1.280 × 2.650 =	3.3920		便所	⑦	1.980 × 1.150 =	2.2770	2.27
	階段	④	1.280 × 3.030 =	3.8784		収納	⑧	1.280 × 2.130 =	2.7264	2.72
						階段	⑨	1.280 × 5.100 =	6.5280	6.52



1階平面図 S=1/100

採光補正係数 S=1/100

排煙計算 S=1/100

2階平面図 S=1/100

排煙・採光・換気計算表											
階	室名	床面積(㎡)	排煙計算 (1/50)			採光計算 (1/20)			換気計算 (1/20)		
			必要開口	有効開口	判定	必要開口	有効開口	判定	必要開口	有効開口	判定
2	会議室	22.52	0.45	0.60	OK	1.12	1.28	OK	1.12	2.20	OK

※ 消防法における無窓階に1階、2階とも該当 用途区分(15)その他
 消火器具：1.2階共それぞれ階の床面積が50㎡以下により設置不要
 誘導灯：極小規模施設であり他の消防設備が設置不要であるため当該設備も設置不要
 その他の消防設備：各階とも無窓階であるが、床面積・収容人数とも設置要件を満たさず設置不要

摘要	月日

ESSE INC.
 甲府市飯田4丁目7-14

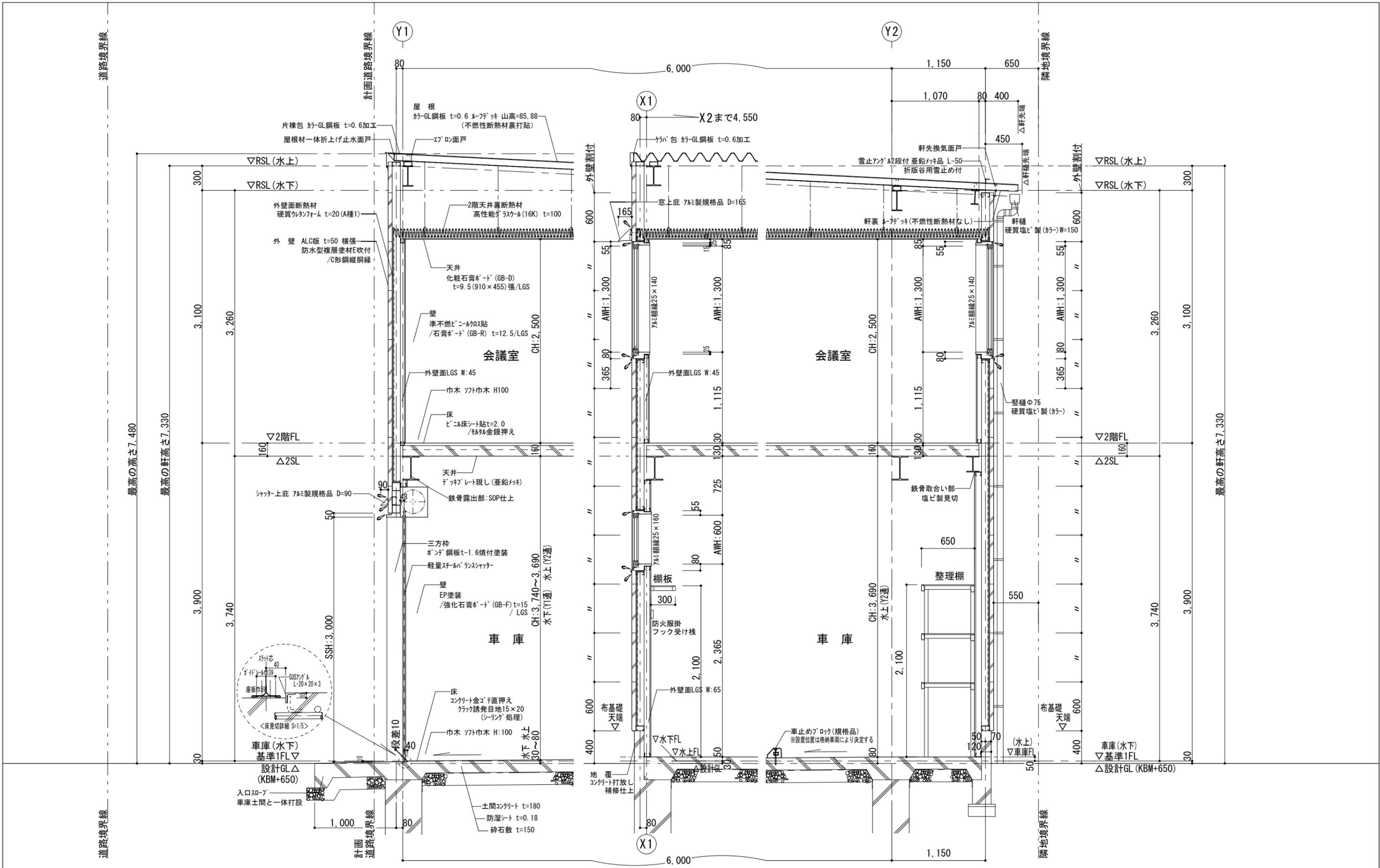
株式会社 イズ
 TEL 055 (226) 8888 (代)
 FAX 055 (226) 5727

一級建築士 長田 孝三 第123273号
 一級建築士事務所 第1-031039号
 E-mail: esse@coral.plala.or.jp

管理建築士 検図者 設計者 担当者
 作製 令和4年12月20日

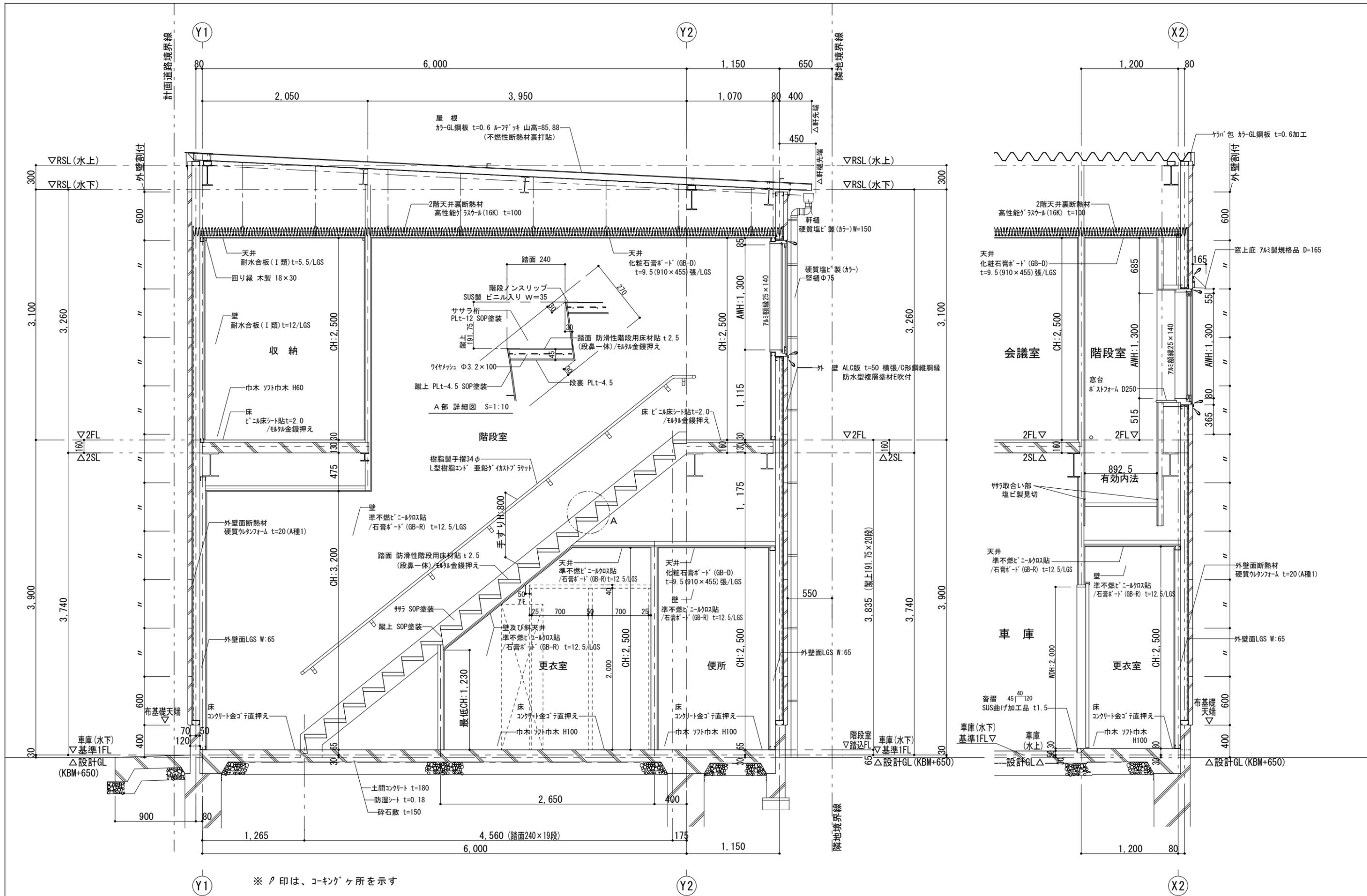
工事名称 北新分団本部拠点施設建設(建築主体)工事
 図面名称 床面積・室面積表、排煙・採光・換気計算表、消防無窓計算表
 縮尺 A-2 S=1:100

図面番号 A-11

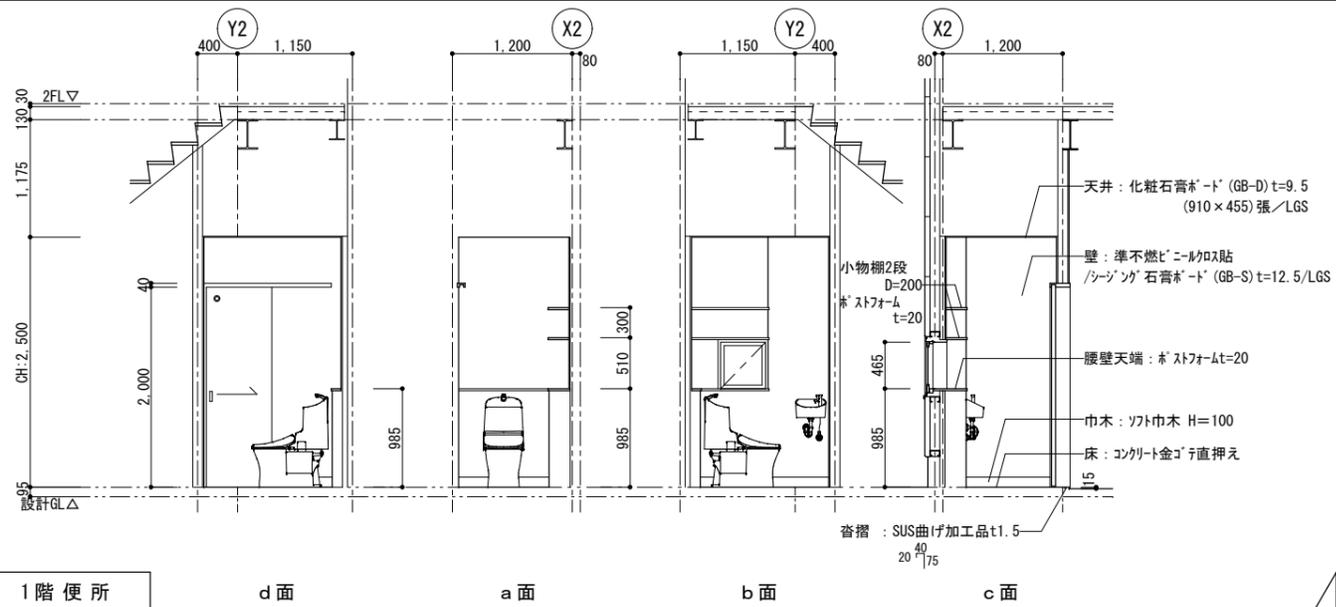


※ ρ 印は、コキックケ所を示す

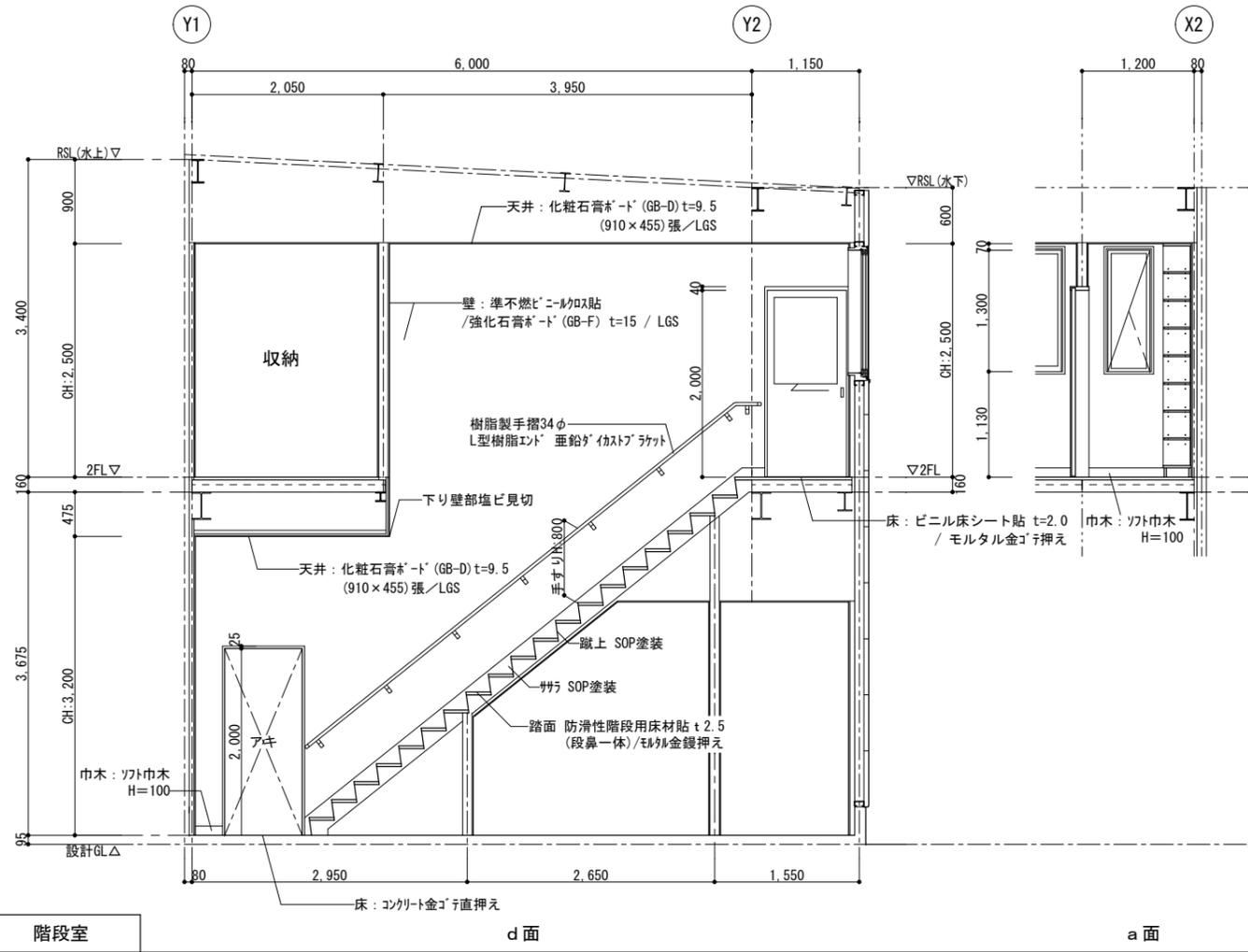
摘要	月日		ESSE INC. 株式会社 イズ 甲府市飯田4丁目7-14 TEL 055 (226) 8888(代) FAX 055 (226) 5727	一級建築士 長田 孝三 第123273号 一級建築士事務所 第1-031039号 E-mail: esse@coral.plala.or.jp	管理建築士 核図者 設計者 担当者	工事名称	北新分団本部拠点施設建設 (建築主体) 工事	図面番号	D - 01
					作製	令和 4 年 12 月 20 日		図面名称	



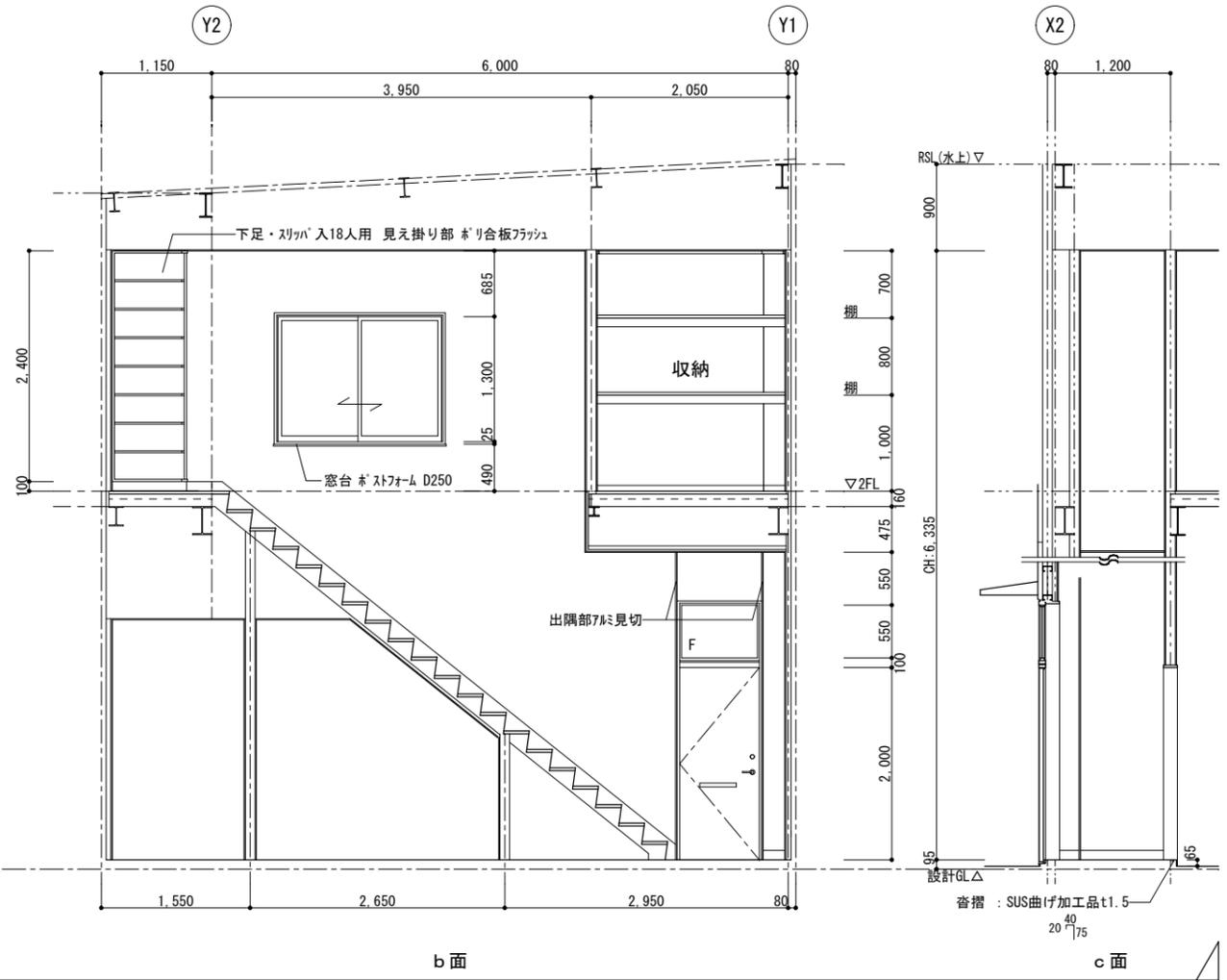
摘要	月日		ESSE INC. 株式会社 イズ TEL 055 (226) 8888 (代) FAX 055 (226) 5727 甲府市飯田4丁目7-14	一級建築士 長田 孝三 第123273号 一級建築士事務所 第1- 031039号 E-mail : esse@coral.plala.or.jp	管理建築士 検図者 設計者 担当者	工事名称	北新分団本部拠点施設建設 (建築主体) 工事	図面番号	図面 D - 02
	作製	令和 4 年 12 月 20 日			図面名称	階段詳細図	縮尺	A-2 S-1:30	



1階便所 d面 a面 b面 c面

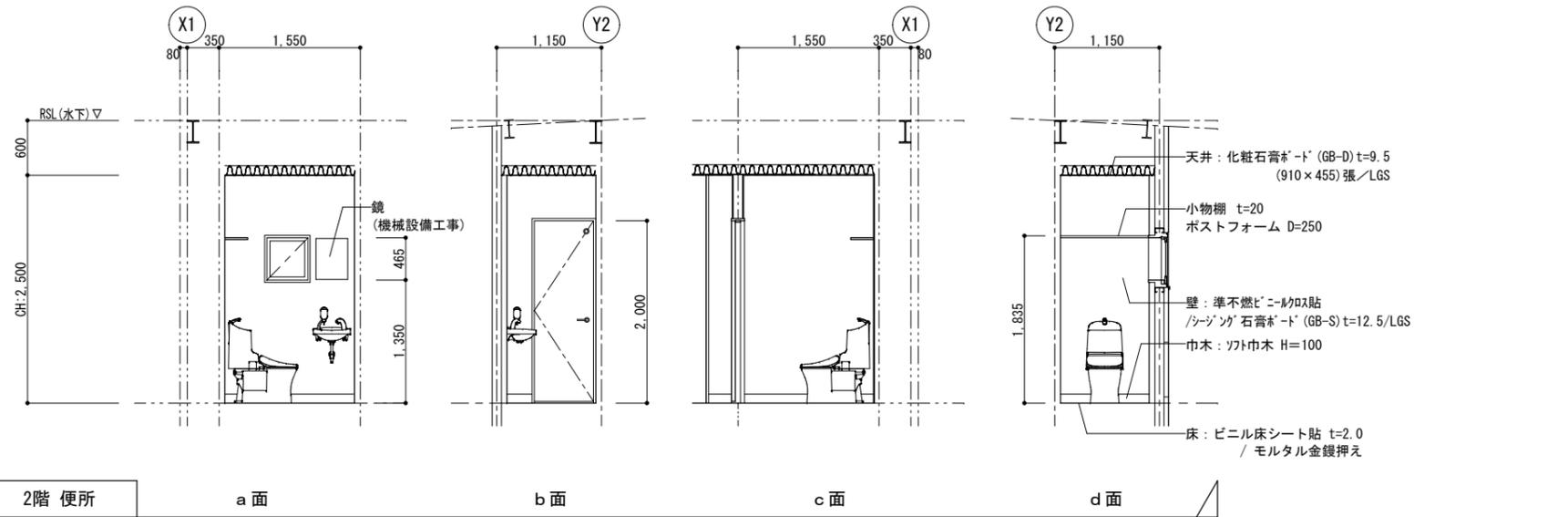
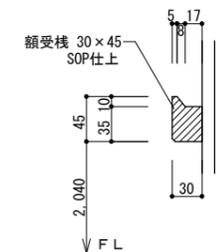
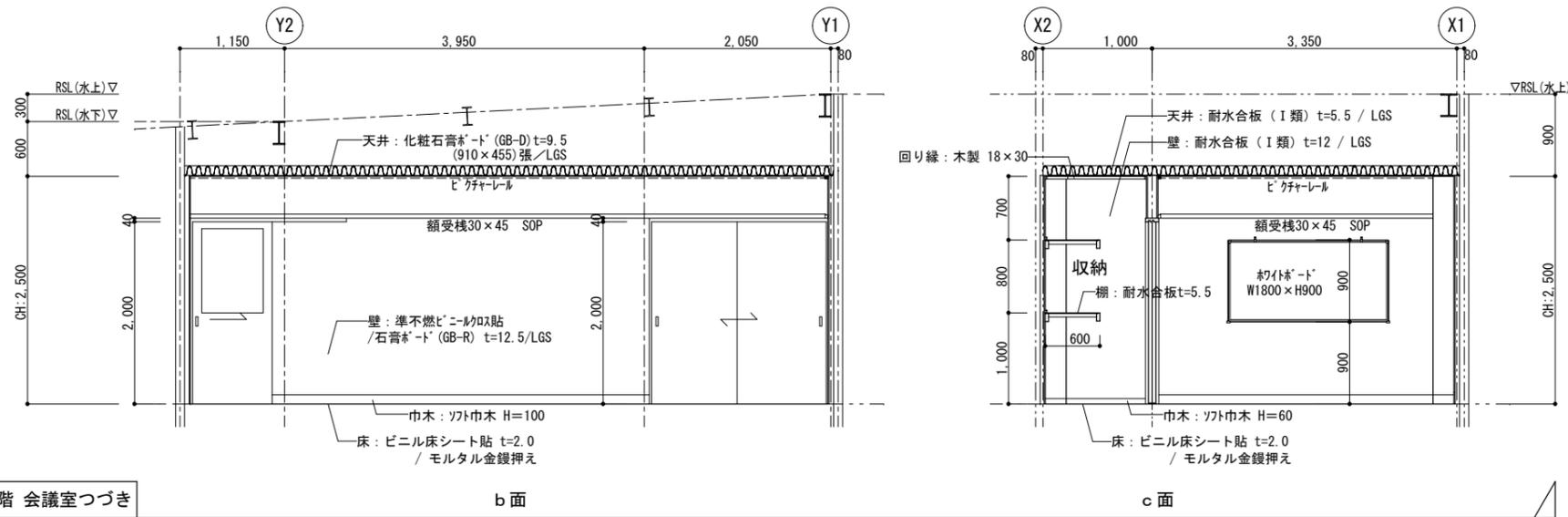
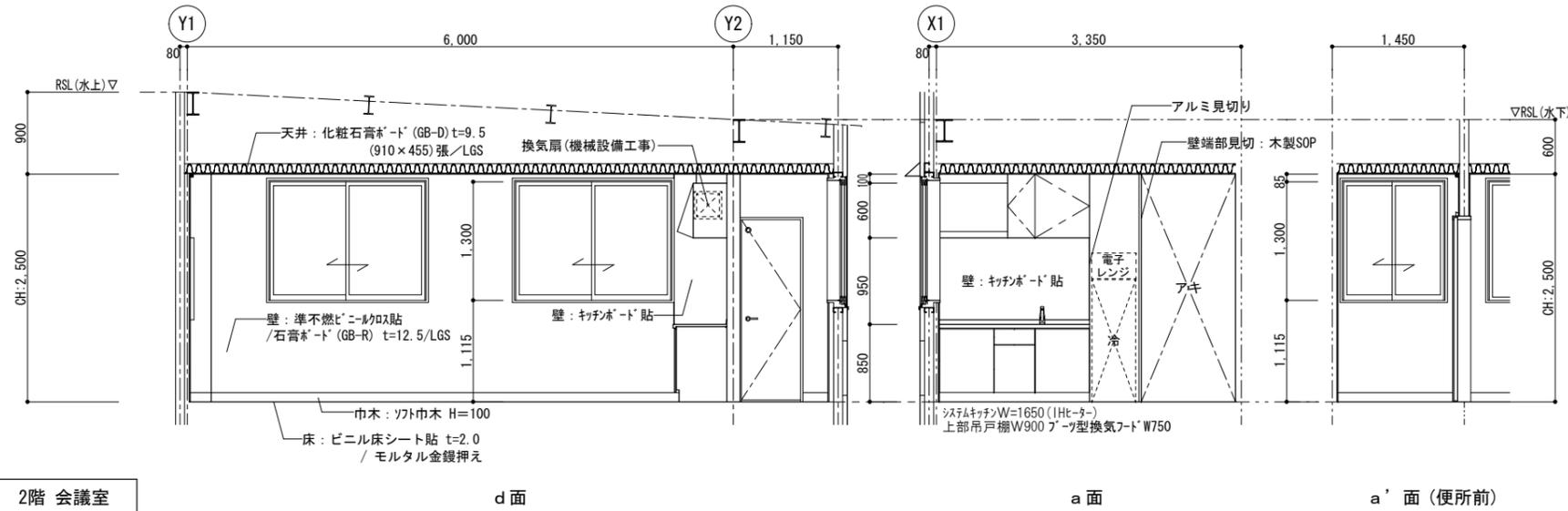


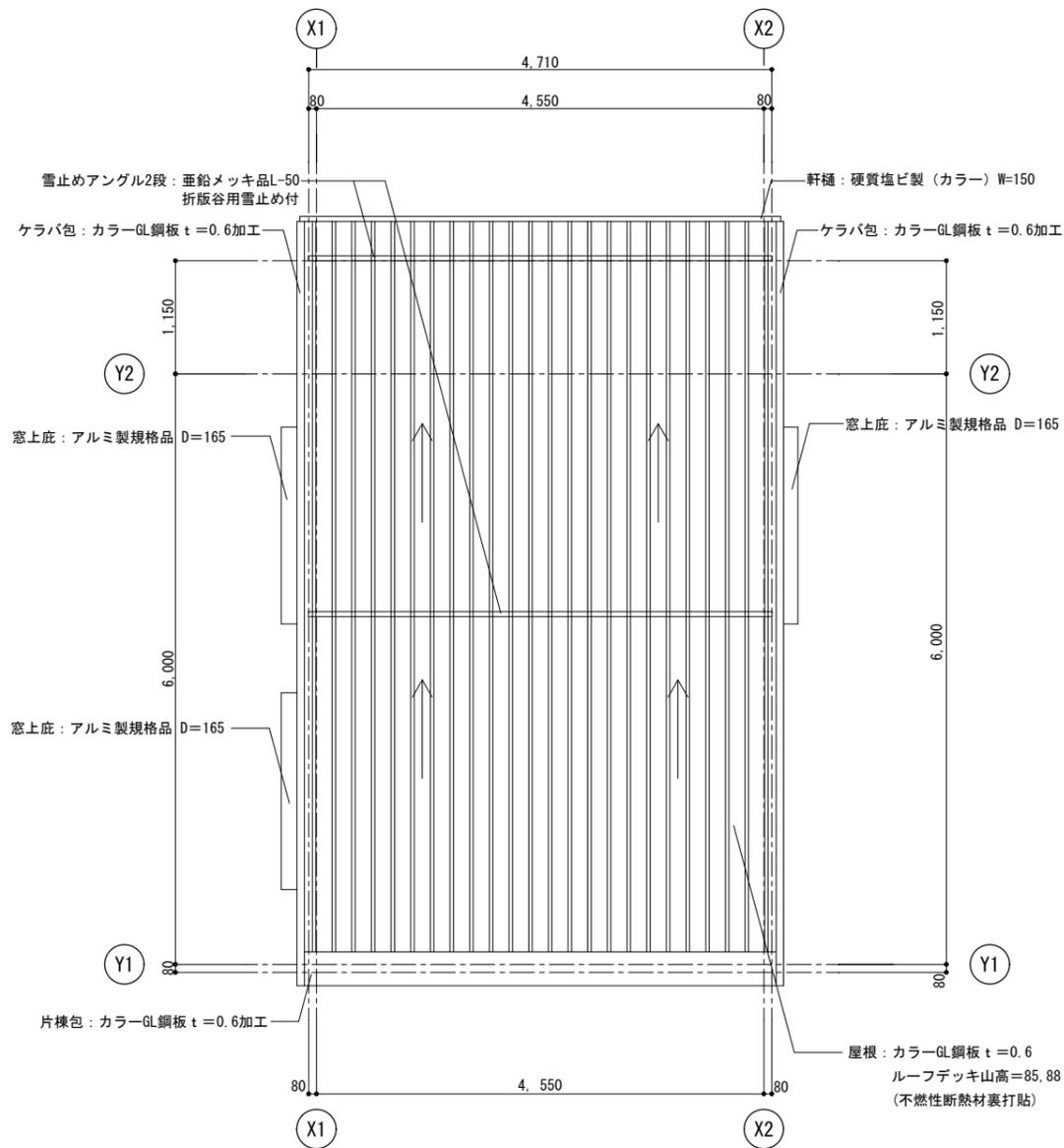
階段室 d面 a面 b面



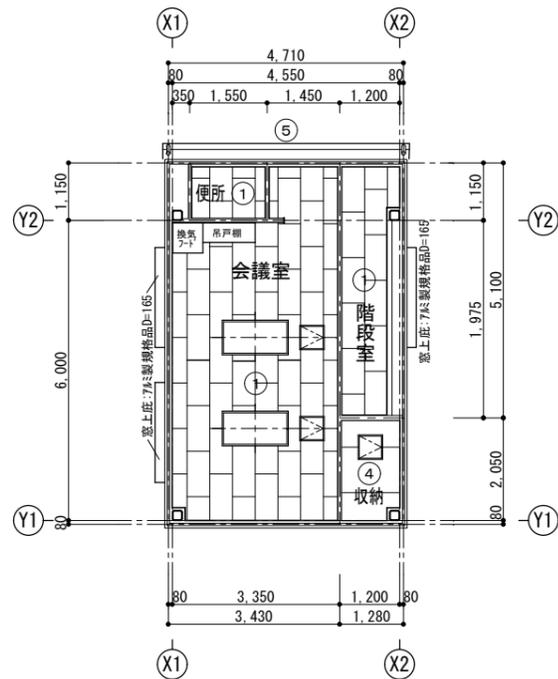
Y2 Y1 X2

摘要	月日		ESSE INC. 株式会社 イズ 甲府市飯田4丁目7-14	TEL 055 (226) 8888 (代) FAX 055 (226) 5727	一級建築士 長田 孝三 第123273号 一級建築士事務所 第1-031039号 E-mail: esse@coral.plala.or.jp	管理建築士	検査者	設計者	担当者	工事名称	北新分団本部拠点施設建設 (建築主体) 工事	図面番号	D - 04
								作製	令和 年 月 日	図面名称	展開図2 (1階 便所 階段室)	縮尺	A-2 1:50

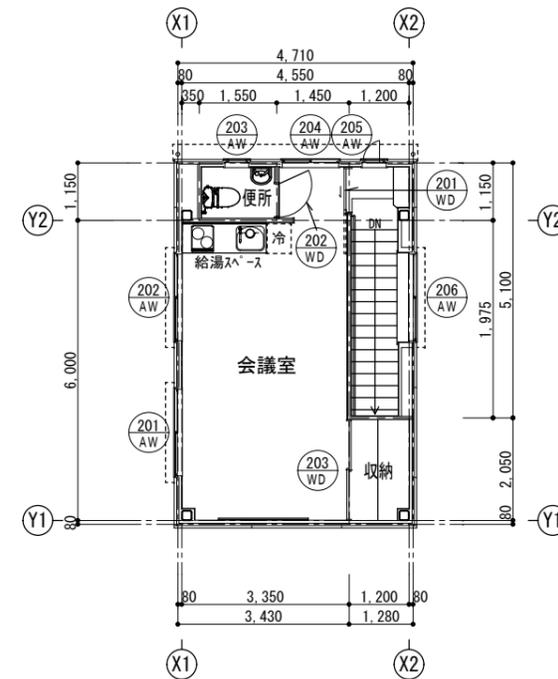




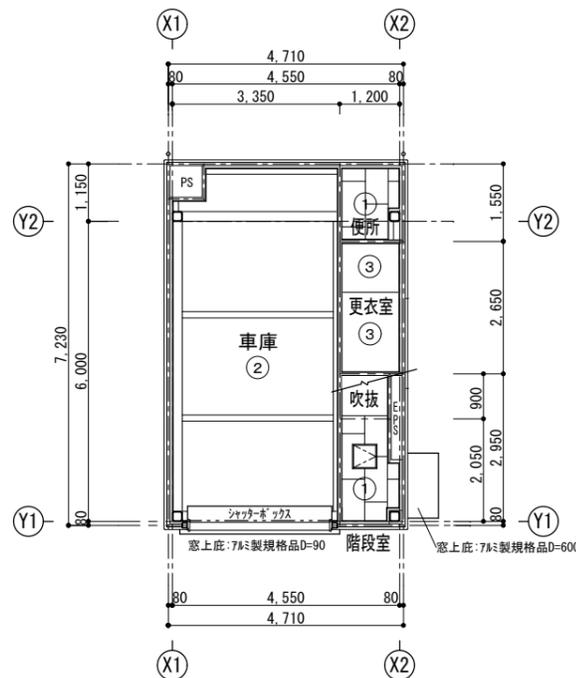
屋根伏図 S=1/50



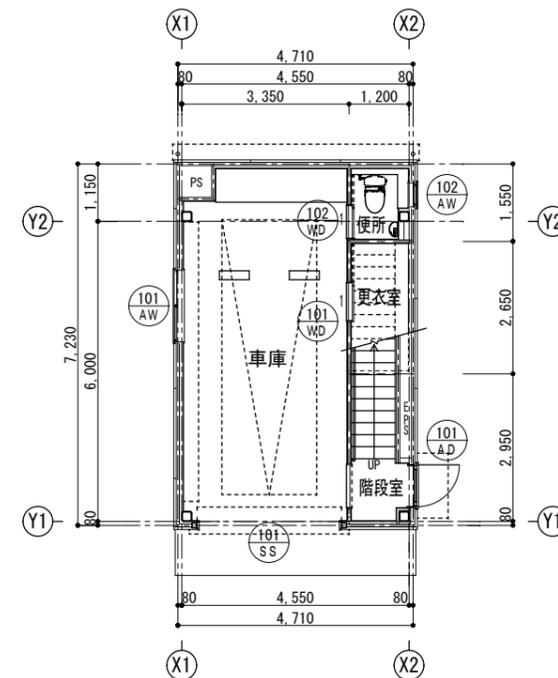
2階天井伏図 S=1/100



2階建具キープラン S=1/100



1階天井伏図 S=1/100



1階建具キープラン S=1/100

天井仕上 凡例	
①	化粧石膏ボード (GB-D) t=9.5 (910×455)張 / LGS
②	デッキプレート現し (亜鉛メッキ) 鉄骨露出部: SOP仕上
③	準不燃ビニルクロス貼/石膏ボード (GB-R) t=12.5/LGS
④	耐水合板 (I類) t=5.5 / LGS
⑤	軒裏 ルーフデッキ表し
▲	天井点検口: アルミ枠450角
■	エアコン開口補強部分 天井開口775×620 2か所

凡例	
①00 AD	アルミ製ドア
①00 AW	アルミ製窓
①00 SS	軽量スチールシャッター
①00 WD	木製ドア

摘要	月日

ESSE INC. 株式会社 イズ
甲府市飯田4丁目7-14

TEL 055 (226) 8888(代)
FAX 055 (226) 5727

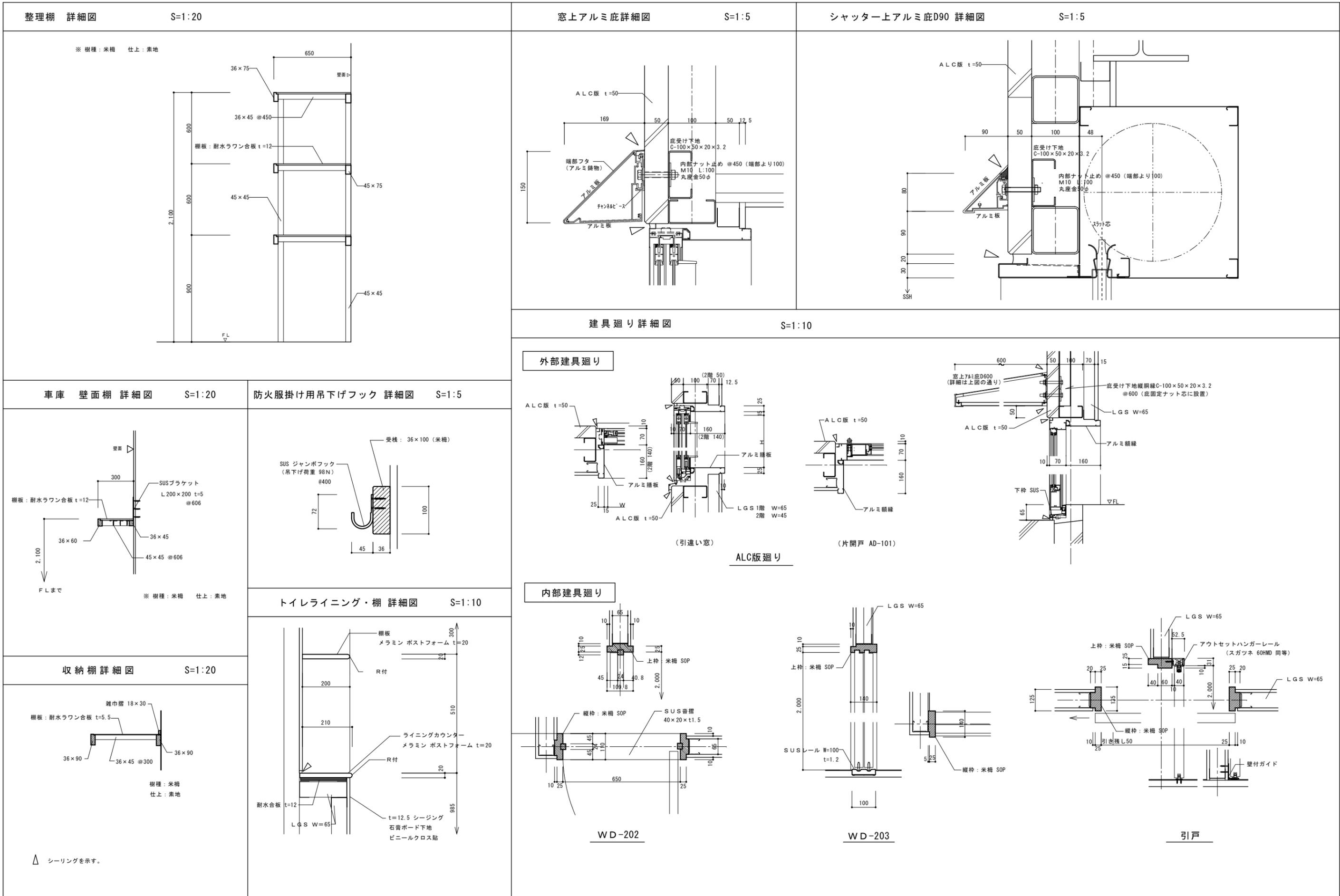
一級建築士 長田 孝三 第123273号
一級建築士事務所 第1-031039号
E-mail: esse@coral.plala.or.jp

管理建築士 核図者 設計者 担当者
作製 令和4年12月20日

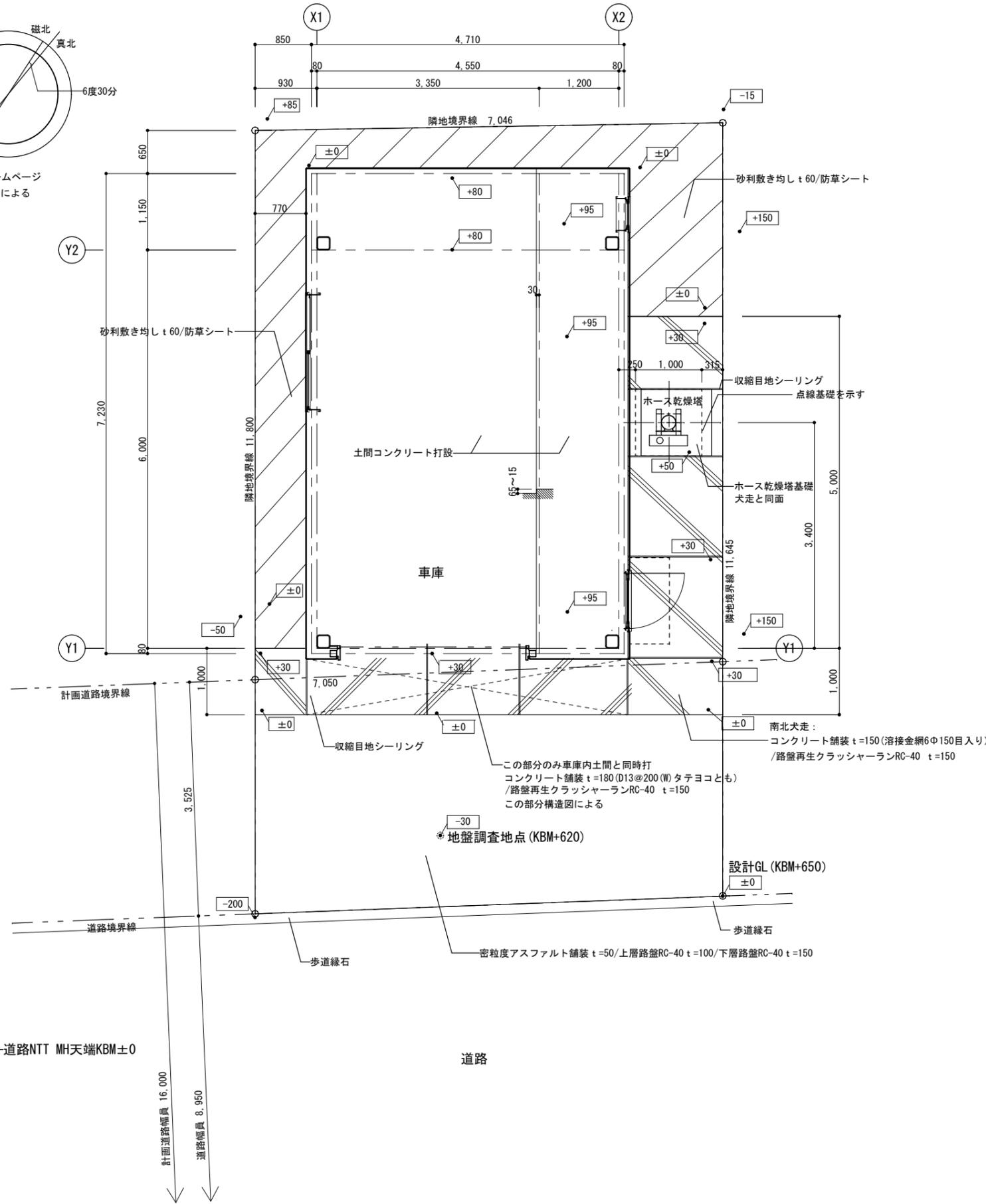
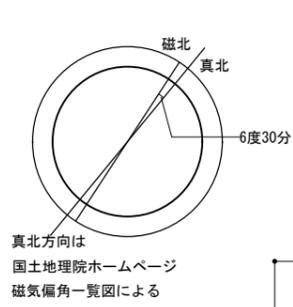
工事名称 北新分団本部拠点施設建設 (建築主体) 工事
図面名称 屋根伏図、天井伏図、建具キープラン 縮尺 A-2 S=1:50 1:100

図面番号 D-06

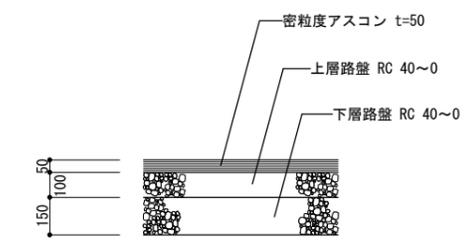
建具符号・室名	101 AD 1階 階段室	101 AW 車庫	102 AW 203 AW 1階・2階 便所	201 AW 202 AW 会議室	204 AW 2階 便所前	205 AW 2階 踏込	
姿図 (内観図)							
型式	はめ殺しランマ付片開きアルミパネルフラッシュ戸 (ALC枠)	引違い窓	横引き出し窓	引違い窓	引違い窓	横引き出し窓	
見込	70	70 (ALC枠)	70 (ALC枠)	70 (ALC枠)	70 (ALC枠)	70 (ALC枠)	
材質・仕上	アルミシルバー	アルミシルバー	アルミシルバー	アルミシルバー	アルミシルバー	アルミシルバー	
ガラス	型 4	型 4	型 4	フロート 5	型 4	型 4	
網戸 (可動)	—	可動網戸 (グラスファイバー)	可動網戸 (グラスファイバー)	可動網戸 (グラスファイバー)	可動網戸 (グラスファイバー)	可動網戸 (グラスファイバー)	
金物	錠	シリンダー本締錠 (外: シリンダー、内: ヴァン)	クレセント 開閉オペレーター	カムラッチ錠	クレセント	カムラッチ錠	
	取手・握玉	SUSレバーハンドル	引手	カムラッチハンドル	引手	カムラッチハンドル	
	支持金物	SUS丁番3枚吊り、ドアクローザー (ストップ付)	戸車	引き出しアーム	戸車	引き出しアーム	
	皿板・沓摺	下枠SUS t1.5	水切	水切	水切	水切	
	額縁アングル	三方付	四方付	四方付	四方付	四方付	
備考	三方アルミ額縁付	四方アルミ額縁付	四方アルミ額縁付	四方アルミ額縁付	四方アルミ額縁付	四方アルミ額縁付	
	ポストロ付	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	
	付属金物一式						
建具符号・室名	206 AW 2階 階段室	101 SS 車庫	101 WD 102 WD 更衣室 1階便所	201 WD 会議室入口	202 WD 2階 便所	203 WD 収納	
姿図 (内観図)							
型式	引違い窓	軽量バランスシャッター	片引ハンガーフラッシュ戸	大額付片引ハンガーフラッシュ戸	片開フラッシュ戸	引違フラッシュ戸	
見込	70 (ALC枠)	—	枠: 110 扉: 30	枠: 110 扉: 30	枠: 110 扉: 40	枠: 110 扉: 30	
材質・仕上	アルミシルバー	スラット: カラー鋼板 t=0.8	ポリ合板フラッシュ	ポリ合板フラッシュ	ポリ合板フラッシュ	ポリ合板フラッシュ	
ガラス	網入型 6.8	ガイドレール: カラー鋼板・シャッターケース (角型)	樹脂製小窓	フロート 3	樹脂製小窓	—	
網戸 (可動)	可動網戸 (グラスファイバー)	—	—	—	—	—	
金物	錠	クレセント	内外錠	内締り表示錠 (非常時開放錠)	引戸用シリンダー本締錠 (外: シリンダー 内: ヴァン)	内締り表示錠	
	取手・握玉	引手	手掛	握り込み引手	握り込み引手	レバーハンドル	
	支持金物	戸車		上吊り金物	上吊り金物	SUS丁番3枚吊り 戸当り金物	
	皿板・沓摺	水切	アルミ強化座板				
	額縁アングル	四方付	三方枠 ボンデ鋼板t1.6 焼付塗装				
備考	四方アルミ額縁付	専用フック棒	戸当りゴム付	戸当りゴム付	他付属品一式	戸当りゴム付	
	付属金物一式	火の用心文字 カットニングシート貼 (300角)	他付属品一式	他付属品一式		他付属品一式	
	付属金物一式	付属金物一式					
摘要	月日		ESSE INC. 株式会社 イズ 甲府市飯田4丁目7-14 TEL 055 (226) 8888 (代) FAX 055 (226) 5727		一級建築士 長田 孝三 第123273号 一級建築士事務所 第1-031039号 E-mail: esse@coral.plala.or.jp		管理建築士: 検査者: 設計者: 担当者: 工事名称: 北新分団本部拠点施設建設 (建築主体) 工事 図面名称: 建具表 縮尺: A-2 S=1:50
	作製				令和 4 年 12 月 20 日		
							図面番号 D - 07



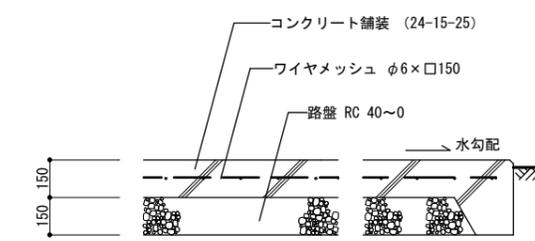
摘要	月日		ESSE INC. 株式会社 イズ 甲府市飯田4丁目7-14 TEL 055 (226) 8888(代) FAX 055 (226) 5727	一級建築士 長田 孝三 第123273号 一級建築士事務所 第1-031039号 E-mail : esse@coral.plala.or.jp	管理建築士 核図者 設計者 担当者	工事名称	北新分団本部拠点施設建設 (建築主体) 工事 部分詳細図	図面番号 D - 08
	作製	令和 4年 12月 20日			図面名称	縮尺 A-2 S=1:30/1:5 S=1:20/1:10		



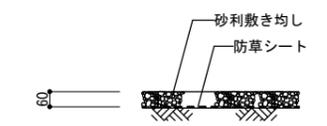
アスファルト舗装 S=1/20



犬走コンクリート舗装 S=1/20



砂利敷き均し S=1/20



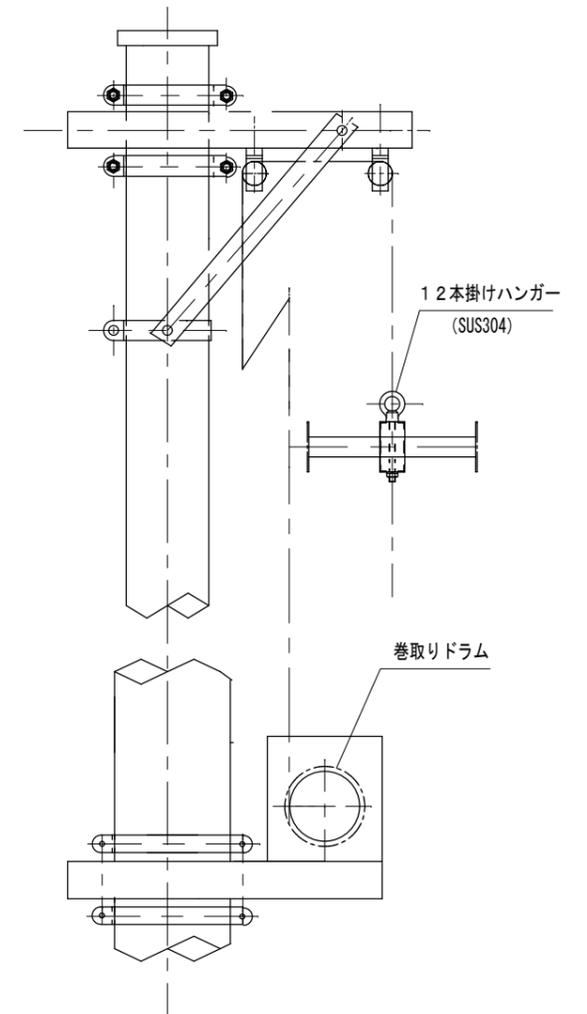
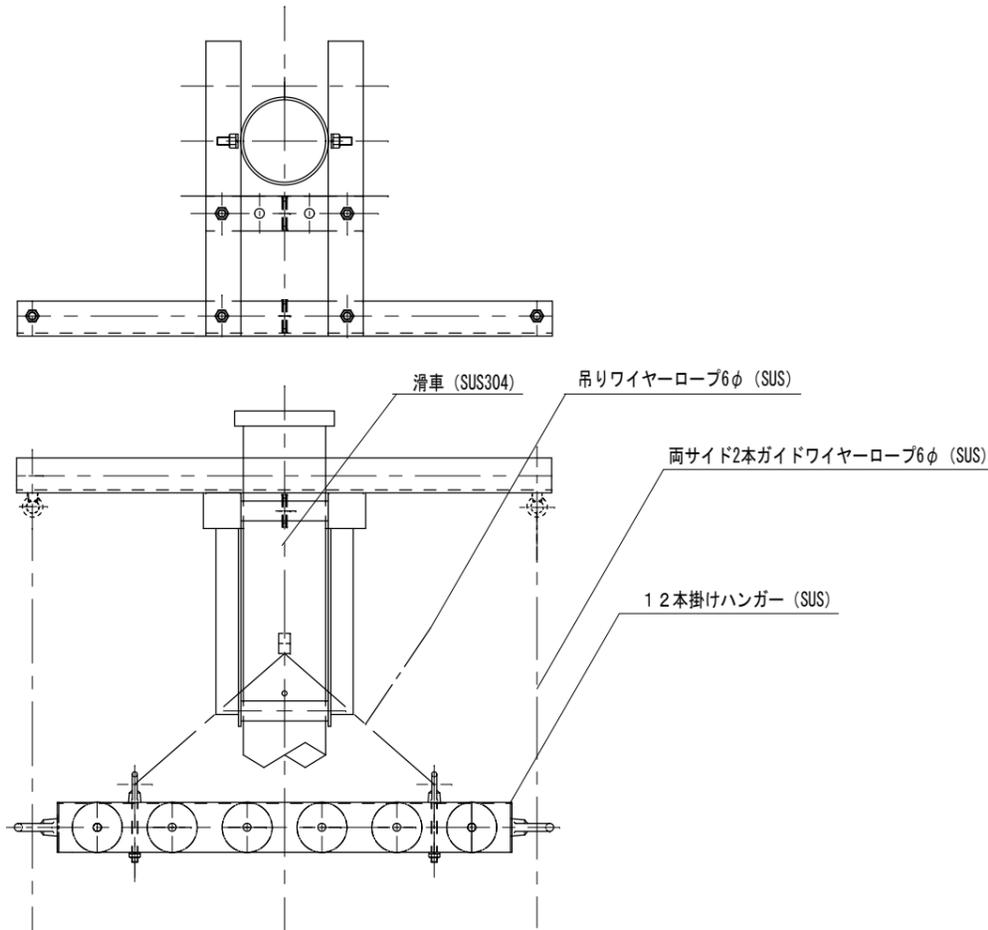
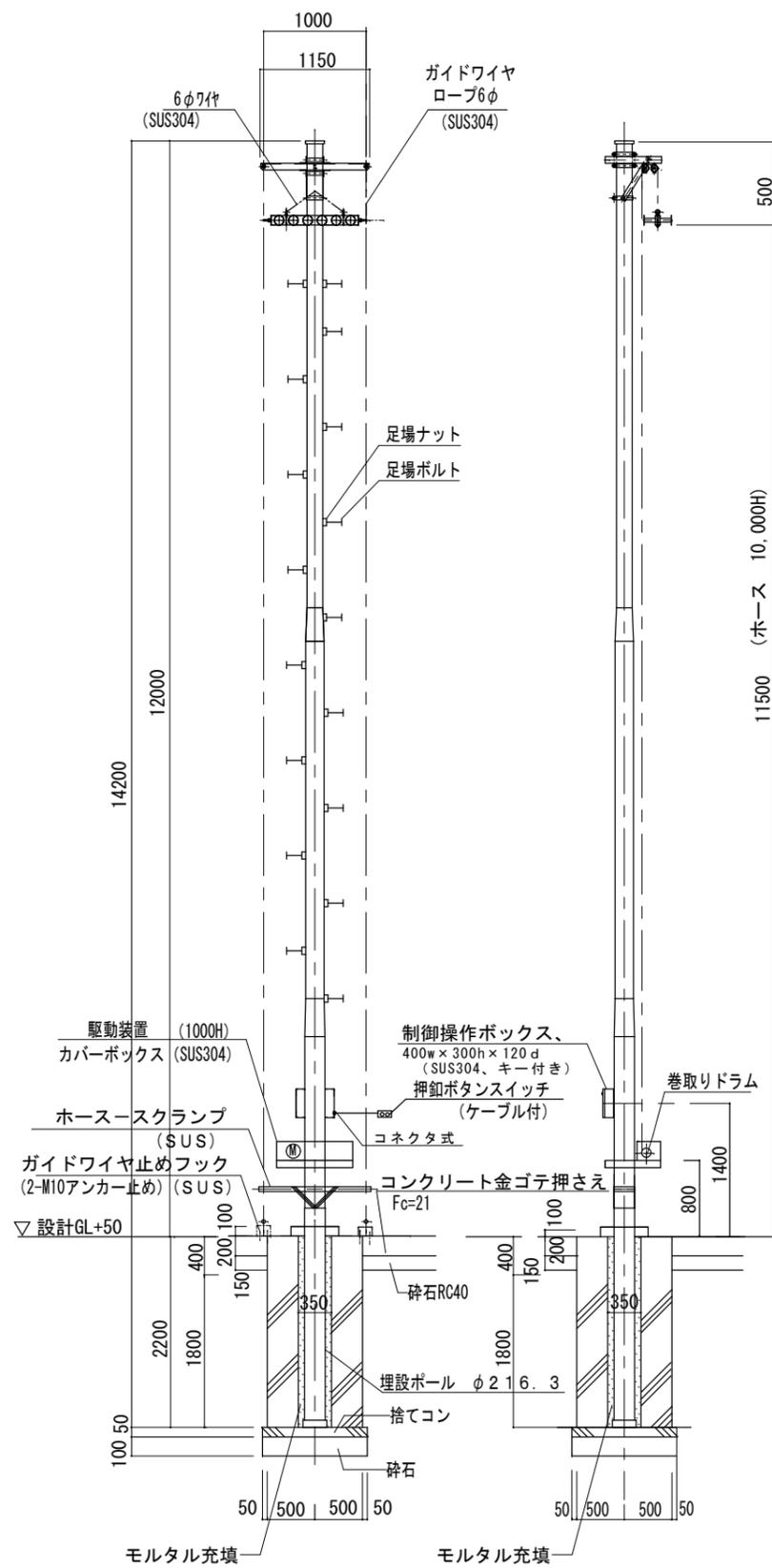
摘要	月日	

ESSE INC. 株式会社 イズ
 一級建築士 長田 孝三 第123273号
 一級建築士事務所 第1-031039号
 TEL 055 (226) 8888 (代)
 FAX 055 (226) 5727
 甲府市飯田4丁目7-14
 E-mail: esse@coral.plala.or.jp

管理建築士 検査者 設計者 担当者
 作製 令和4年12月20日

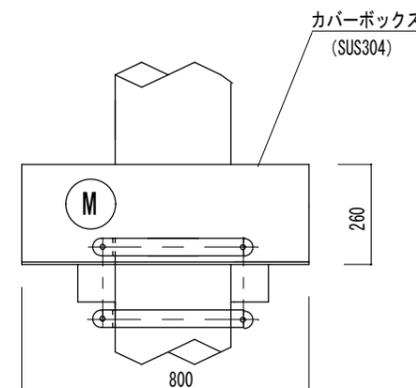
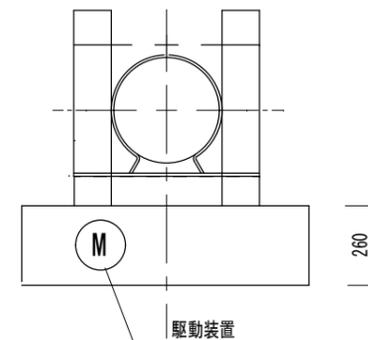
工事名称 北新分団本部拠点施設建設(建築主体)工事
 図面名称 外構図
 縮尺 A-2 S=1:50

図面番号 D-09



構造リスト

位置	基礎本工事 (本体基礎より先に施工)
断面	<p>支柱用スリーブ ポイド管350φ</p>
X x Y	1000 x 1000
主筋	20-D13
フープ	□-D13@200
その他	柱頭にはかご筋を設置 4隅主筋の柱頭はフック付 主筋脚部L型フック付 柱頭・柱脚部第1フープは二重筋 フープ筋形状はタガ型



仕様	
型式	DP-AU型 (電動式)
台数	1基
積載本数	20Mホース 12本吊
巻上方式	電動式 (200V-単相-50Hz-0.2kw)

番号	名称	材質
1	吊ハンガー	(SUS304)
2	吊ワイヤロープ、ガイドワイヤロープ φ6	(SUS304)
3	共梁金物	(SS材 溶融亜鉛メッキ)
4	吊ビーム	(SS材 溶融亜鉛メッキ)
5	支柱	1. ボールφ193 x 3. 2~φ216. 3 x 6. 0 (SS材 溶融亜鉛メッキ) 2. 頂上キャップ (SS材 溶融亜鉛メッキ) 3. 底キャップ (SS材 溶融亜鉛メッキ) 4. 足場ボルト (SS材 溶融亜鉛メッキ)
6	ホース振止め金具	(SUS304)
7	滑車	(SUS304)
8	バンド及びバンドボルト	(SS材 溶融亜鉛メッキ)
9	ウィンチ取付ブラケット	(SS材 溶融亜鉛メッキ)

摘要	月日

ESSE INC. 株式会社 イズ
 甲府市飯田4丁目7-14
 TEL 055 (226) 8888(代)
 FAX 055 (226) 5727

一級建築士 長田 孝三 第123273号
 一級建築士事務所 第1- 031039号
 E-mail : esse@coral.plala.or.jp

管理建築士 核図者 | 設計者 | 担当者
 作製 令和 4年 12月 20日

工事名称 北新分団本部拠点施設建設 (建築主体) 工事
 図面名称 ホース乾燥塔詳細図
 縮尺 A-2 NOSCALE

図面番号 D - 10

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

※修正箇所は下線を引くこと

1. 一般事項

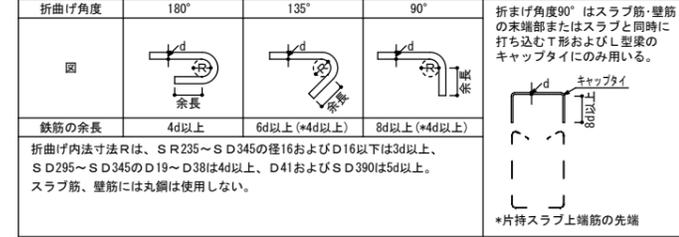
(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2) 記号

d...異形棒筋の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D...部材の成 R...直径
@...間隔 r...半径 C...中心線 Q...部材間の内法距離 h_o...部材間の内法高さ
ST...あばら筋 HOOP...帯筋 S.HOOP...補強帯筋 φ...直径又は丸鋼

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状



(2) 鉄筋中間部の折曲げ形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内のり寸法(R)
	帯 筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235, SR295 SD295A・B SD345	16φ以下	3d以上
			19φ	4d以上
			D19以上	4d以上
	上記以外の鉄筋	SD295A・B SD345 SD390	D16以下	4d以上
			D19~D25	6d以上
			D29~D41	8d以上

(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

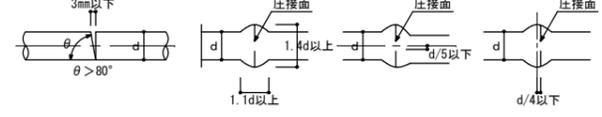
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ (L _i)
		一般 (L _a)	下端筋 (L _a) 小梁 スラブ	
SD295A SD295B	24~30	30dまたは20dフック付き	20d または 10d フック付き	35dまたは25dフック付き
	21	35dまたは25dフック付き		40dまたは30dフック付き
SD345	30~36	30dまたは20dフック付き	10d かつ 150mm以上	45dまたは35dフック付き
	24~27	35dまたは25dフック付き		40dまたは30dフック付き
SD390	18以下	35dまたは25dフック付き		45dまたは30dフック付き
	21	40dまたは30dフック付き		40dまたは30dフック付き

[注] 許容応力度計算、許容応力度等計算、その他構造計算を要さない小規模建築物の場合は、梁主筋の柱への定着は 40d とする ※本建物は採用

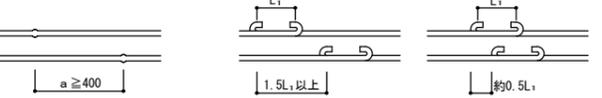
継手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4. D 29 以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が 7 mm を超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状



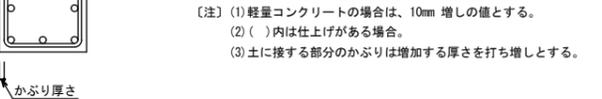
圧接圧接 重ね継手 (下図のいずれかとする)



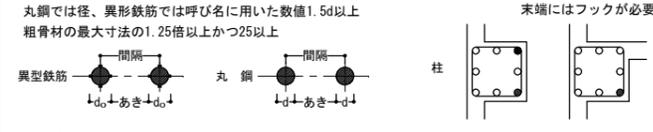
(4) かぶり厚さ (単位: mm)

部 位	設計かぶり厚さ (mm)	最小かぶり厚さ (mm)	
土に接しない部分	屋根スラブ	30	20
	床スラブ 非耐力壁	40	30
土に接する部分	柱	40	30
	耐力壁	50	40(30)
土に接する部分	擁 壁	50	40
	柱・はり・床スラブ・耐力壁	50	40(30)
基礎・擁壁	70	60(1)	

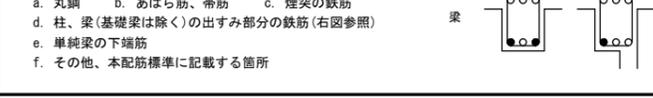
[注] (1) 軽量コンクリートの場合は、10mm 増しの値とする。
(2) () 内は仕上げがある場合。
(3) 土に接する部分のかぶりは増加する厚さを打ち増しとする。



(5) 鉄筋のあき

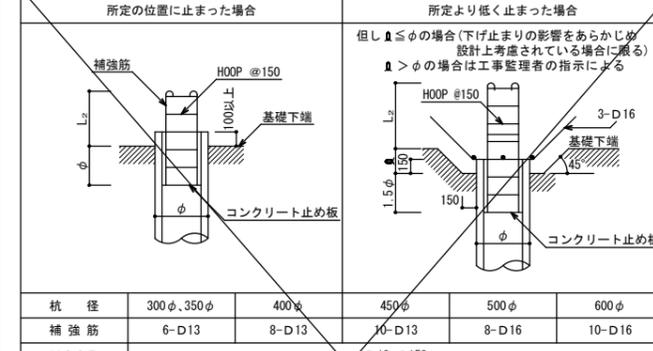


(6) 鉄筋のフック (a~fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

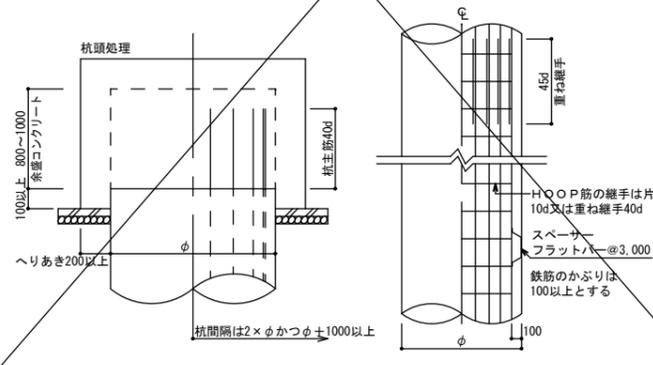


3. 杭 (地震力等の水平力を考慮して、別途検討すること。)

1) PRC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

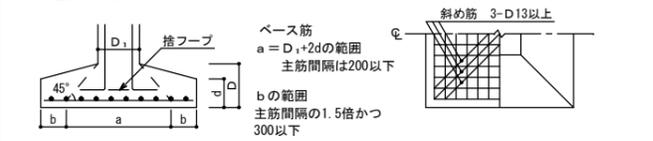


(2) 現場打ちコンクリート杭

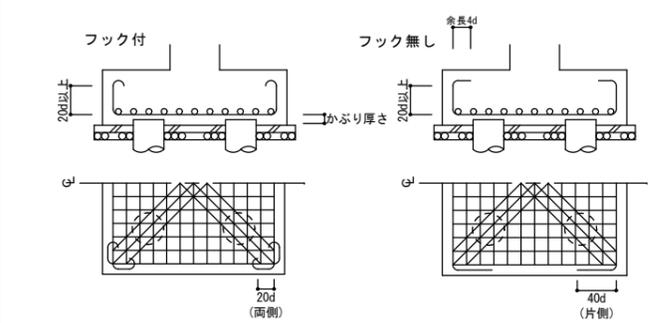


4. 基礎

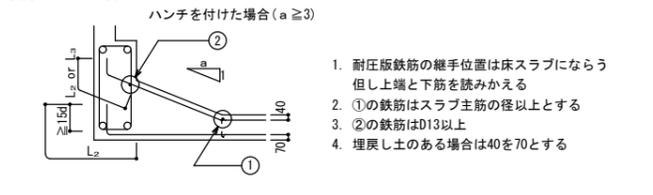
(1) 直接基礎



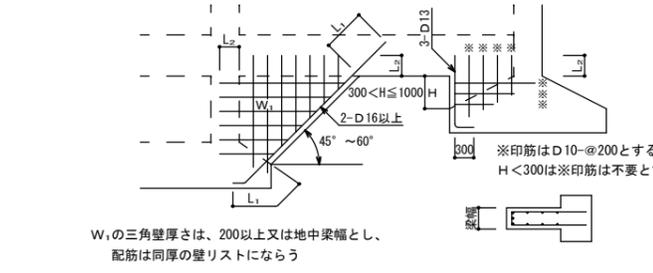
(2) 杭基礎



(3) べた基礎

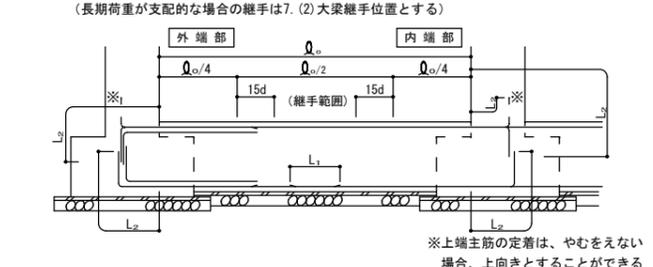


(4) 基礎接合部の補強

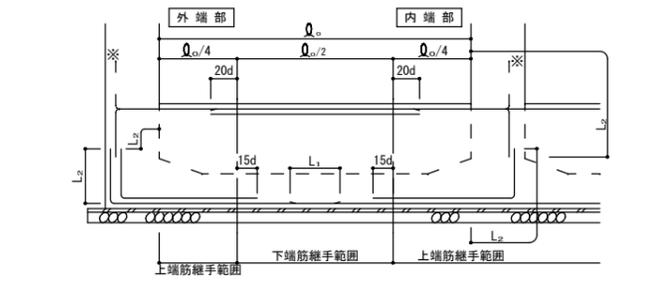


5. 地中梁

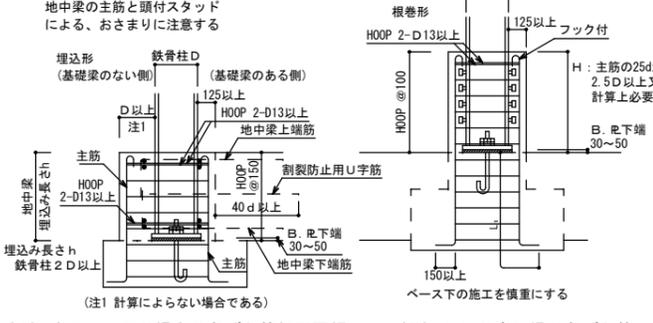
(1) 独立基礎、杭基礎の場合 (定着、継手)



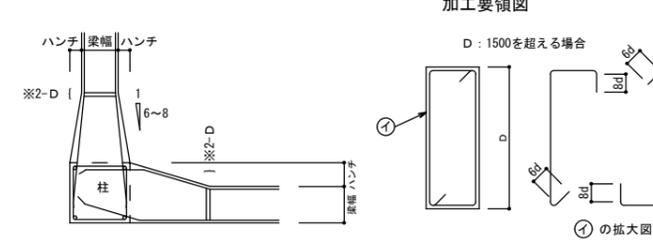
(2) 布基礎、べた基礎の場合 (定着、継手)



(3) 小規模鉄骨造柱脚固定の配筋

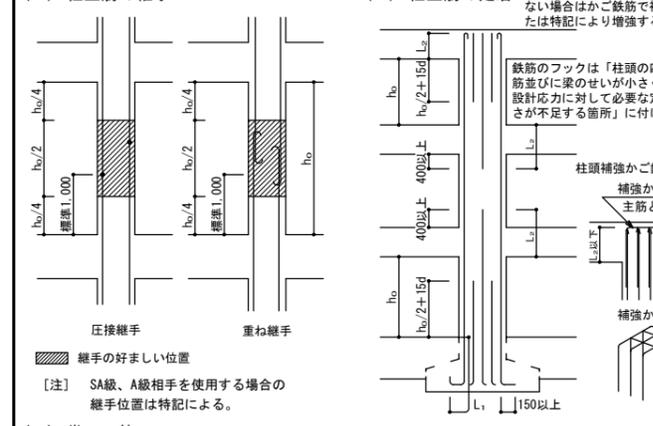


(4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

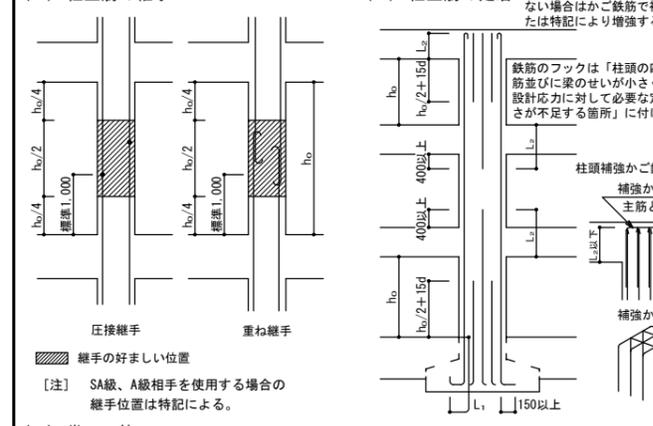


6. 柱

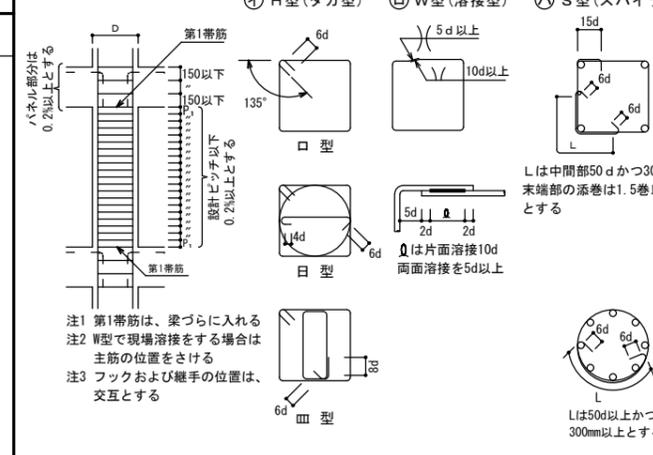
(1) 柱主筋の継手



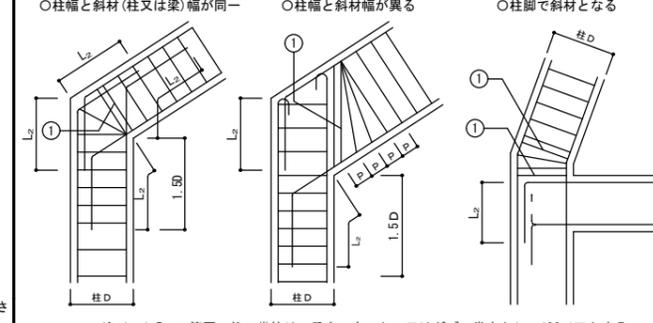
(2) 柱主筋の定着



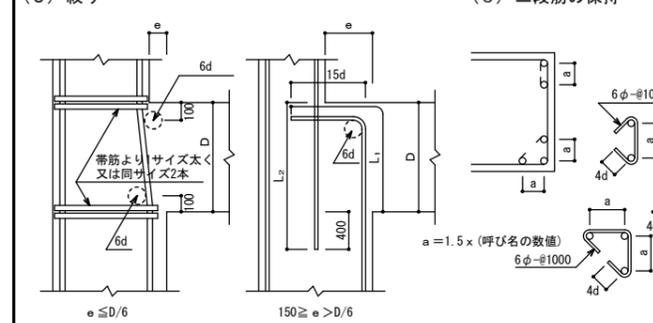
(3) 帯筋



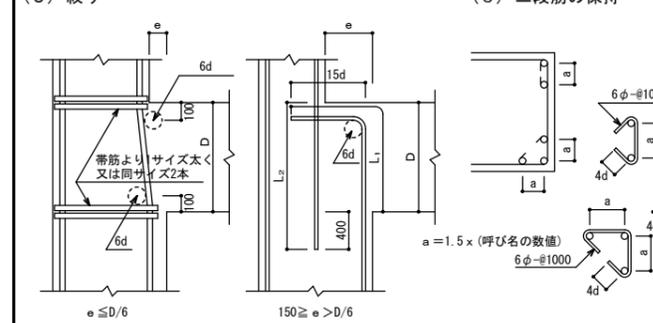
(4) 斜め柱・斜め梁



(5) 絞り



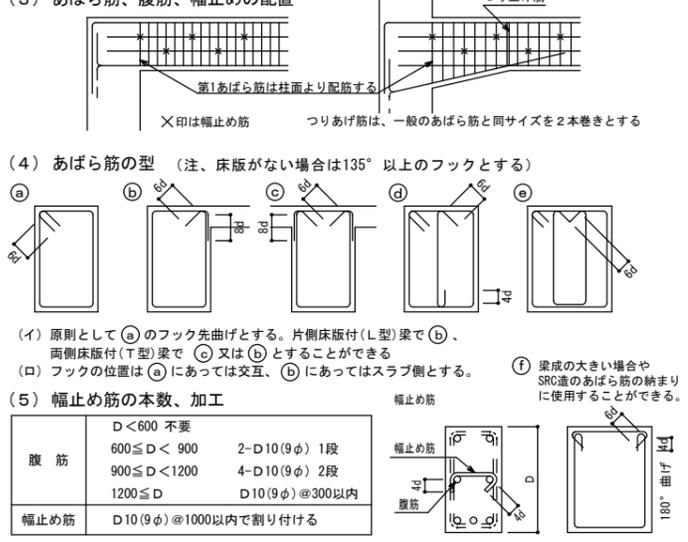
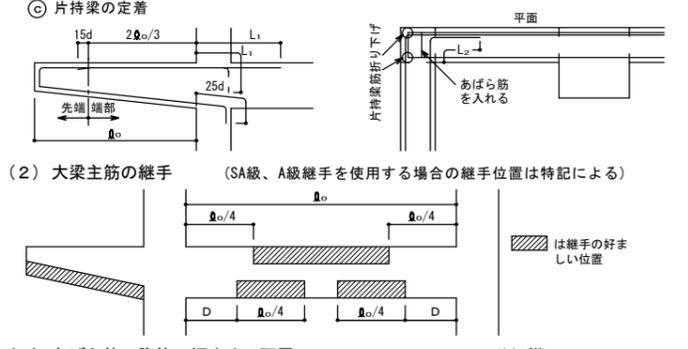
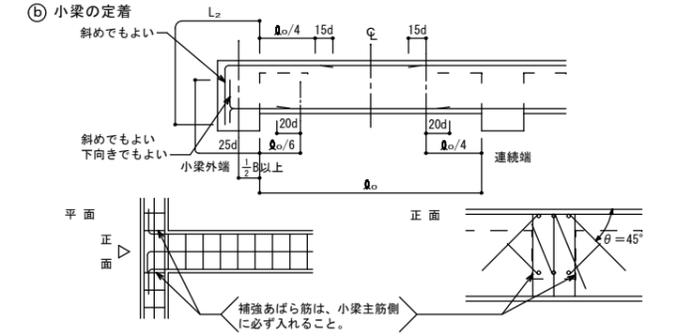
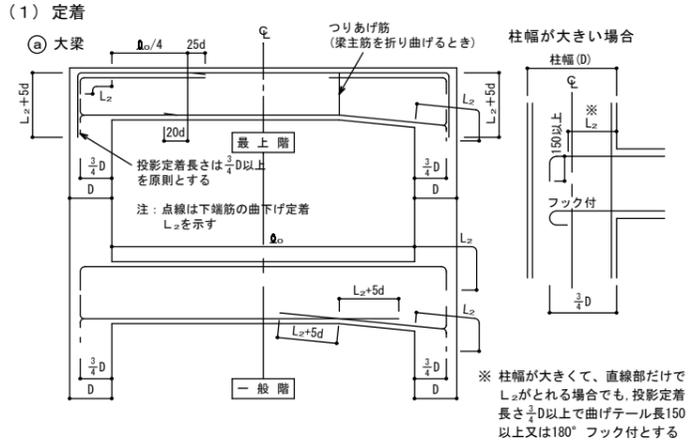
(6) 二段筋の保持



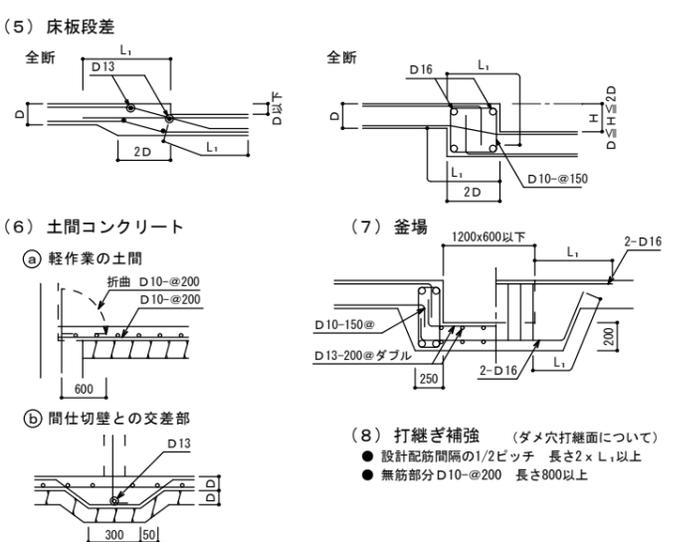
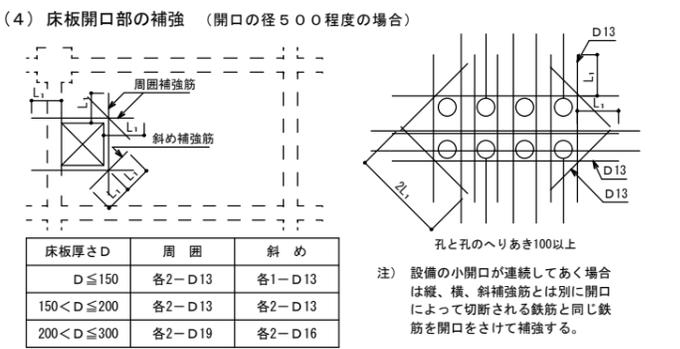
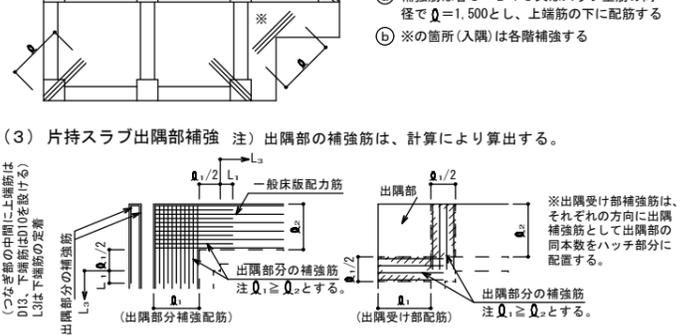
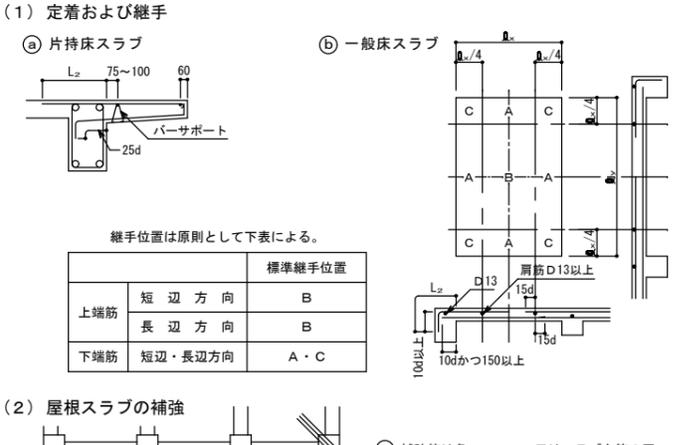
鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

※修正箇所は下線を引くこと
L=本構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

7. 大梁、小梁、片持梁

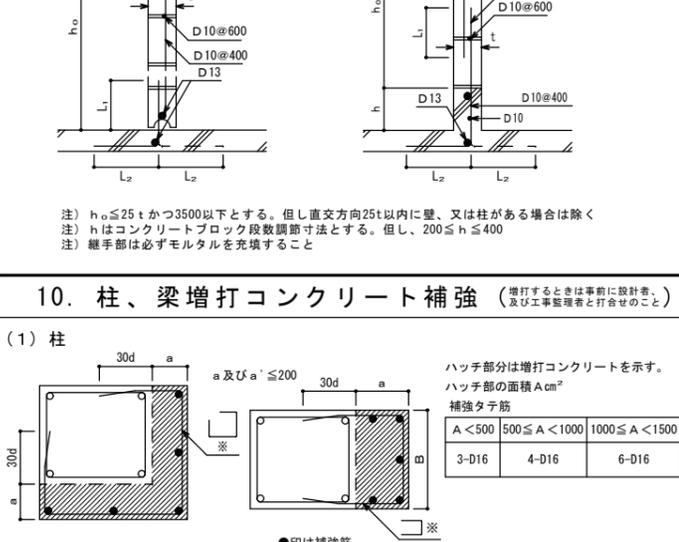
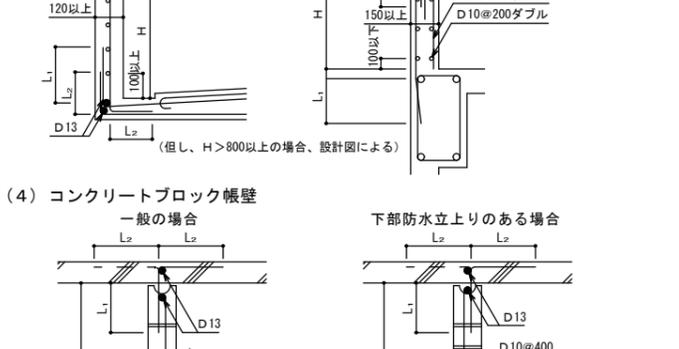
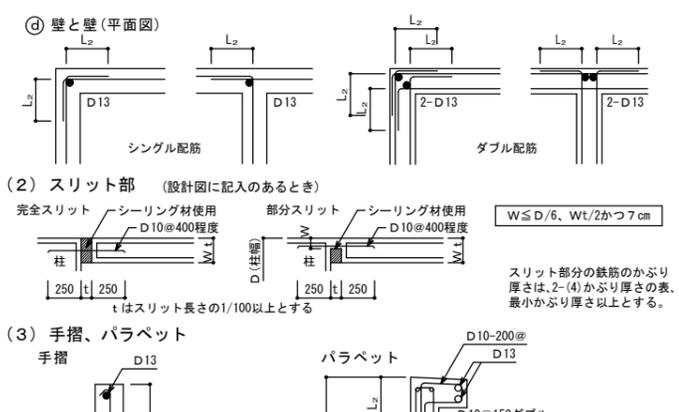
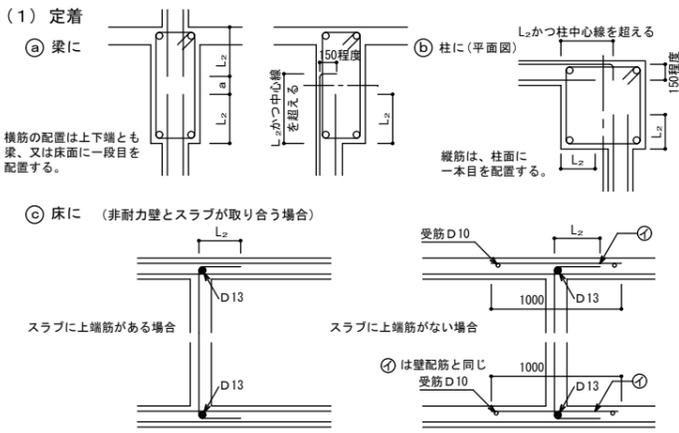


8. 床板



補強筋は、梁主筋の1段階し径 (D16以上) とする。
あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
腹筋D10ピッチは、梁の腹筋と合わせる。
D ≥ 400の場合は補強筋を3本とする。
aは100~200程度。
梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

9. 壁

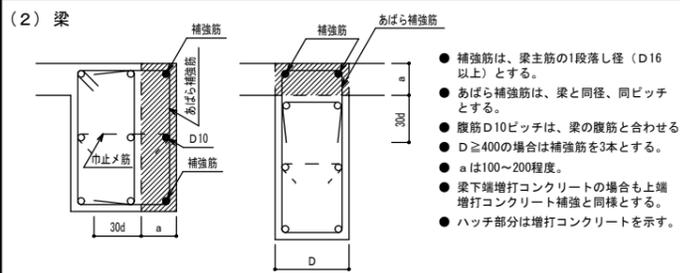
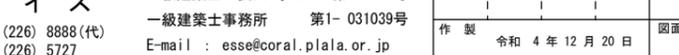


ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
ハッチ部の面積 $A \text{ cm}^2$

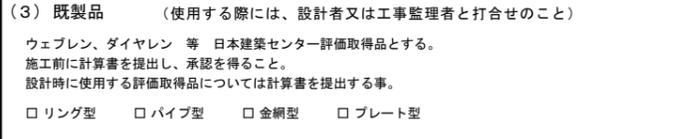
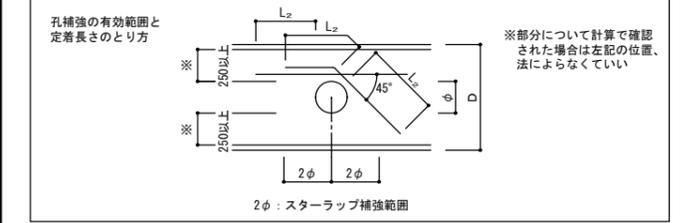
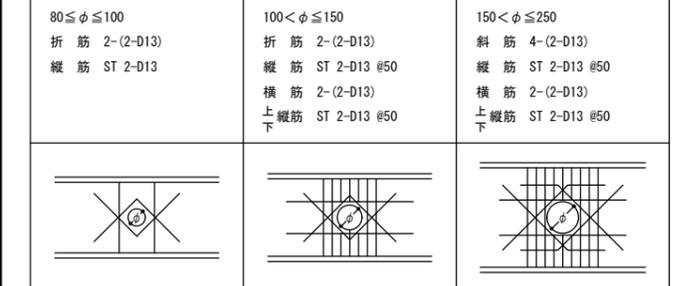
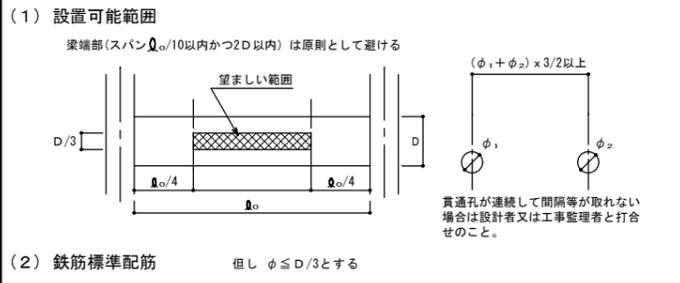
補強タ子筋	$A < 500$	$500 \leq A < 1000$	$1000 \leq A < 1500$
	3-D16	4-D16	6-D16

●印は補強筋
※ 柱と同径、同ピッチとする。

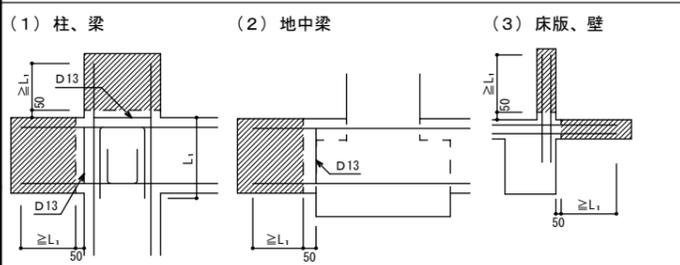
10. 柱、梁増打コンクリート補強



11. 梁貫通孔補強



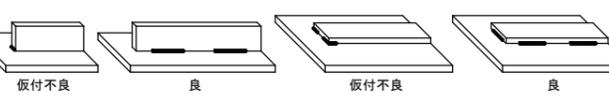
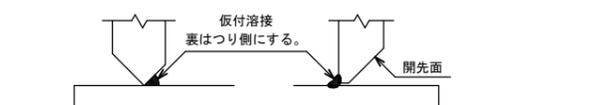
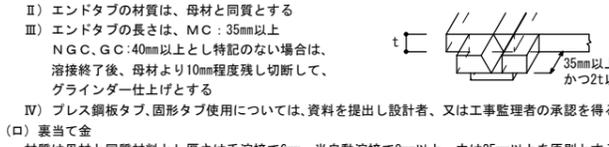
12. 増築予定



鉄骨構造標準図(1)

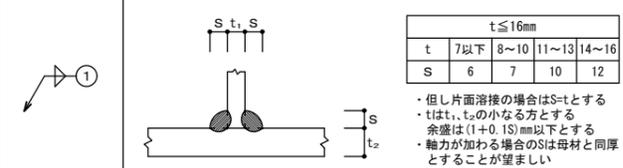
※修正箇所は下線を引くこと

1. 一般事項

- (1) 材料及び検査
- 構造設計特記仕様による
 - 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする。但し、ベースプレートの厚さは除く
 - 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の結果を添付する
- (2) 工作一般
- 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る
 - 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
 - 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする
- (3) 高力ボルト接合
- 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
 - 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。但し、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、50 μ mRz以上である場合は、赤さびは発生しないまでよい。
 - 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。
- (4) 溶接接合
- 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。
 - 溶接技能者
溶接技能者は施工に適用するJIS Z 3801(手溶接)又はJIS Z 3841(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする
 - 溶接機器
(イ) 交流アーク溶接機 300A~500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
(ロ) アークエアガウジング機(直流) (ホ) 溶接電流を測定する電流計
(ハ) サブマージアーク溶接機一式 (ヘ) 溶接棒乾燥器
 - 溶接方法
アーク手溶接(MC) ガスシールドアーク半自動溶接(GC)
セルフ(ノンガス)シールドアーク半自動溶接(NGC) アークエアガウジング(AAG)
 - 溶接姿勢
- 
- (f) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
- 仮付位置
組立溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける
- 
- 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する
- 
- (g) 溶接施工
- エンドタブ
I 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
II エンドタブの材質は、母材と同質とする
III エンドタブの長さは、MC: 35mm以上
NGC, GC: 40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
IV プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監理者の承認を得る
 - 裏当て金
材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる
 - スカラップ半径は30~35mmと10mmのダブルアールとする。但し梁成がD=150mm未満の場合のスカラップはr=20mmとする
- 
- ノンスカラップ工法
裏あて金
G: ルート間隔
 θ : 開先角度
- 
- (ホ) 裏はつり
標準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を履行し、部材に確認マークを付ける
- 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部を傷めない様に、養生を行う
- (5) 塗装
コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

2. 溶接規準図 (注) f:余盛 G:ルート間隔 R:フェース S:脚長 (単位mm)

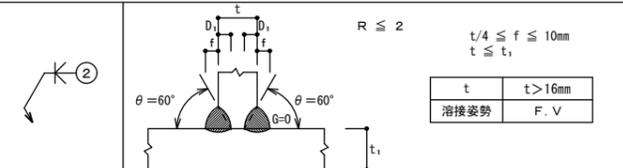
(1) 隅肉溶接



t ≤ 16mm					
t	7以下	8~10	11~13	14~16	
S	6	7	10	12	

・但し片面溶接の場合はS=tとする
・tはt₁, t₂の小さな方とする
・余盛は(1+0.1S)mm以下とする
・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい

(2) 部分溶け込み溶接 (使用箇所に注意)

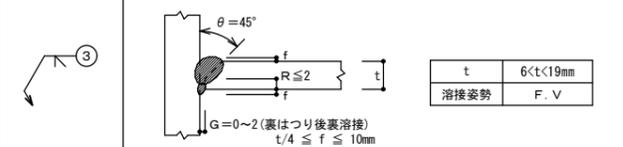


R ≤ 2 t/4 ≤ f ≤ 10mm t ≤ t₁

t	t > 16mm
溶接姿勢	F・V

(3) 完全溶込み溶接 (平継手、T継手)

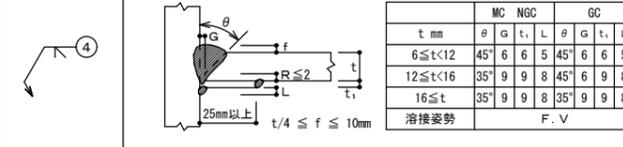
③



θ=45° f ≤ 2 t/4 ≤ f ≤ 10mm G=0~2(裏はつり後溶接)

t	6 < t < 19mm
溶接姿勢	F・V

④

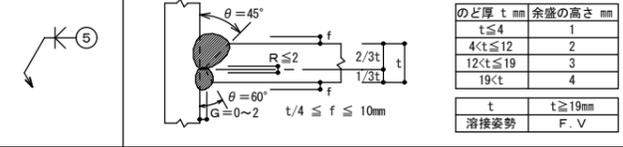


t mm	MC NGC		GC	
	θ	G	t ₁	L
6 < t < 12	45°	6	6	5
12 < t < 16	35°	9	9	8
16 ≤ t	35°	9	9	8

溶接姿勢 F・V

⑤

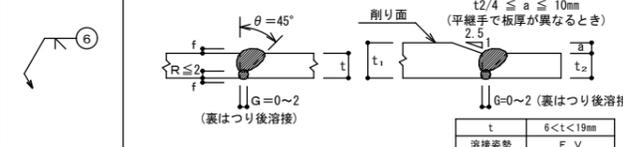
T形突合せ継手余盛



のど厚 t mm	余盛の高さ mm
t ≤ 4	1
4 < t ≤ 12	2
12 < t ≤ 19	3
19 < t	4

t	t ≥ 19mm
溶接姿勢	F・V

⑥

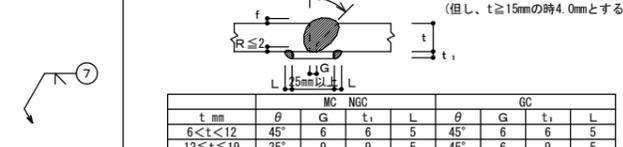


0 < f ≤ 3.0mm (但し、t ≥ 15mmの時4.0mmとする)

削り面 (平継手で板厚が異なる時)

t	6 < t < 19mm
溶接姿勢	F・V

⑦

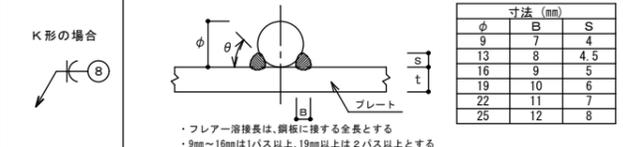


0 < f ≤ 3.0mm (但し、t ≥ 15mmの時4.0mmとする)

t mm	MC NGC		GC	
	θ	G	t ₁	L
6 < t < 12	45°	6	6	5
12 ≤ t ≤ 19	35°	9	9	5
19 > t	35°	9	9	8

溶接姿勢 F・V

(4) フレア溶接

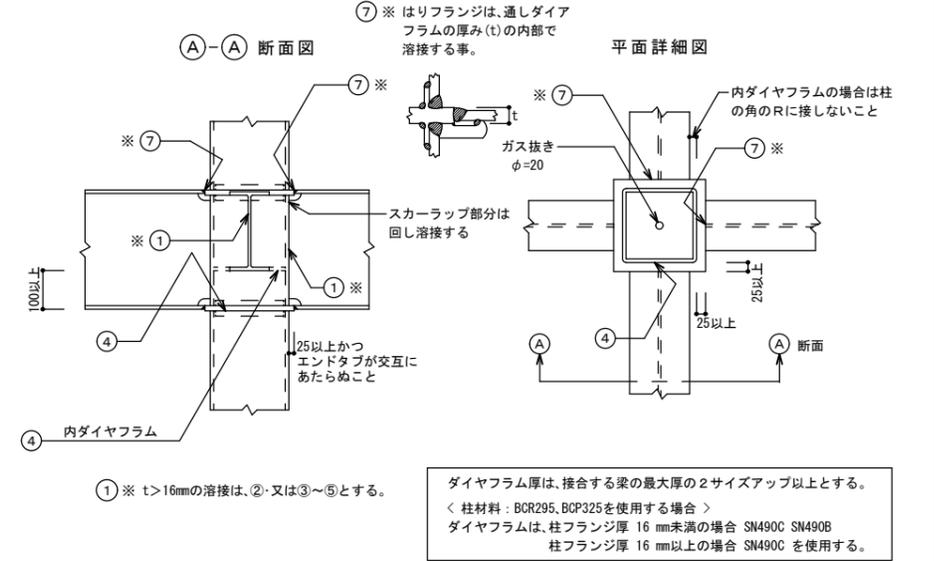
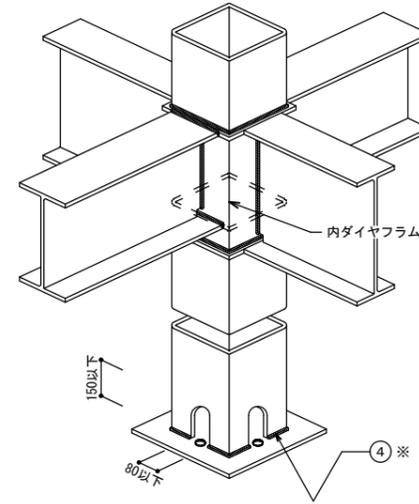


寸法 (mm)			
φ	B	S	t
9	7	4	
13	8	4.5	
16	9	5	
19	10	6	
22	11	7	
25	12	8	

・フレア溶接長は、鋼板に接する全長とする
・9mm~16mmは1パス以上、19mm以上は2パス以上とする
・溶接棒角度θは30°~40°とする

※溶接記号番号を○中に記入のこと

● BOX型 (通しダイアフラムの場合)

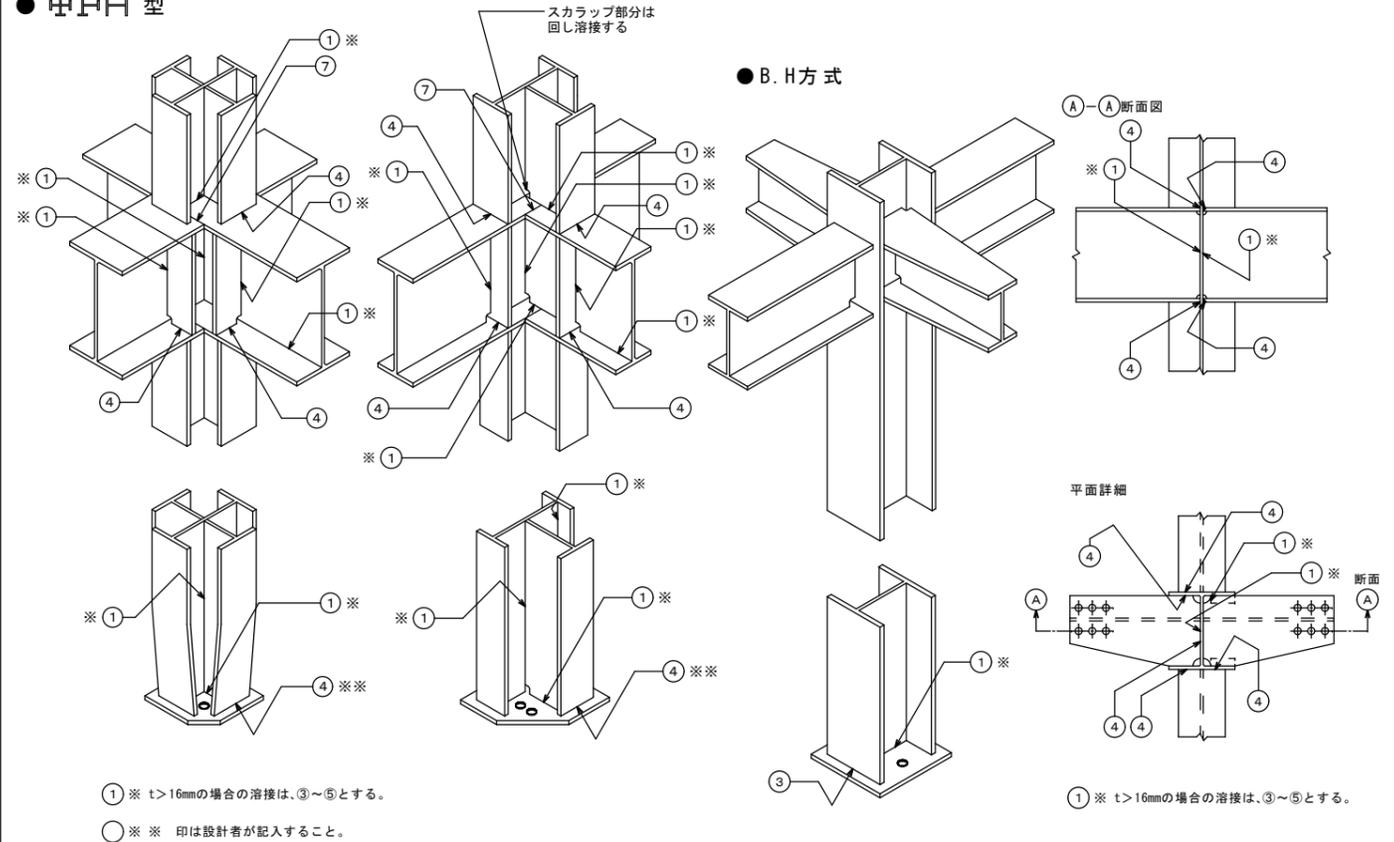


● 鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	入熱温度差 (°C)
400N級鋼	JIS Z 3211, 3212, 3214	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
JIS Z 3312	YGA-50W, 50P	40以下	350以下
JIS Z 3315	YGA-50W, 50P		
JIS Z 3212, 3214	YGW-11, 15		
490N級鋼	JIS Z 3312	30以下	250以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
JIS Z 3315	YGA-50W, 50P	40以下	350以下
JIS Z 3315	YGA-50W, 50P		
JIS Z 3212, 3214	YGW-11, 15		

注) STKR, BCR, BCP材はJIS Z 3312のみ使用可
「構造設計特記仕様 6. 鉄骨工事(2) 口認定または登録工場」のグレード別に定められた適用範囲と溶接条件制限事項による

● H-H型



摘要	月日			

ESSE INC. 株式会社 イズ
甲府市飯田4丁目7-14
TEL 055 (226) 8888 (代)
FAX 055 (226) 5727

一級建築士 長田 孝三 第123273号
一級建築士事務所 第1- 031039号
E-mail : esse@coral.plala.or.jp

管理建築士 検査者 設計者 担当者
作製 令和 4年 12月 20日

工事名称 北新分団本部拠点施設建設 (建築主体) 工事
図面名称 鉄骨構造標準図(1)
縮尺 A-2 NONSCALE

図面番号 S - 04

鉄骨構造標準図(2)

※修正箇所は下線を引くこと

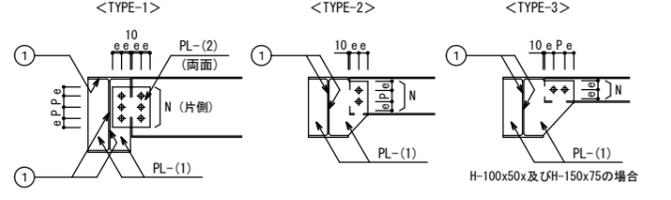
3. 継手規準図、その他

(1) 高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ(P) ボルト穴径・最小縁端距離 (mm)

呼び径 d	ボルト穴径	最小縁端距離 (e)			ピッチ (P)	
		(1)	(2)	(3)	(2) (3)の標準	最小 標準
M16	18	40	28	22	40	60
M20	22	50	34	26	40	60
M22	24	50	38	28	40	60
M24	26	60	44	32	45	70
M16	21 (16.5)		28	22	(40)	(60)
M20	25 (20.5)		34	26	(40)	(60)
M22	27 (22.5)		38	28	(40)	(60)
M24	29 (24.5)		44	32	(45)	(70)
M27	32		49	36		
M30	35		54	40		
M34 以上	呼び径+5		9d/5	4d/3		

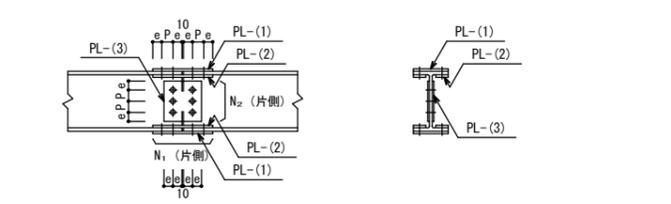
- 【注】 (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
 (2) せん断線・手動ガス切断線の場合の縁端距離
 (3) 圧延線・自動ガス切断線・のこ引き線・機械仕上線の場合の縁端距離

(2) ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部材	PL-(1)	PL-(2)	N-径
設計図による。					

(3) 剛接合梁継手リスト (SCSS-H97による)

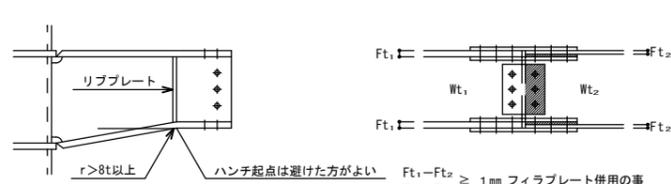


【注】 端部をBとする場合の部材は設計図による

符号	部材	フランジ			ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N ₁ -径	PL-(3)	N ₂ -径
設計図による。						

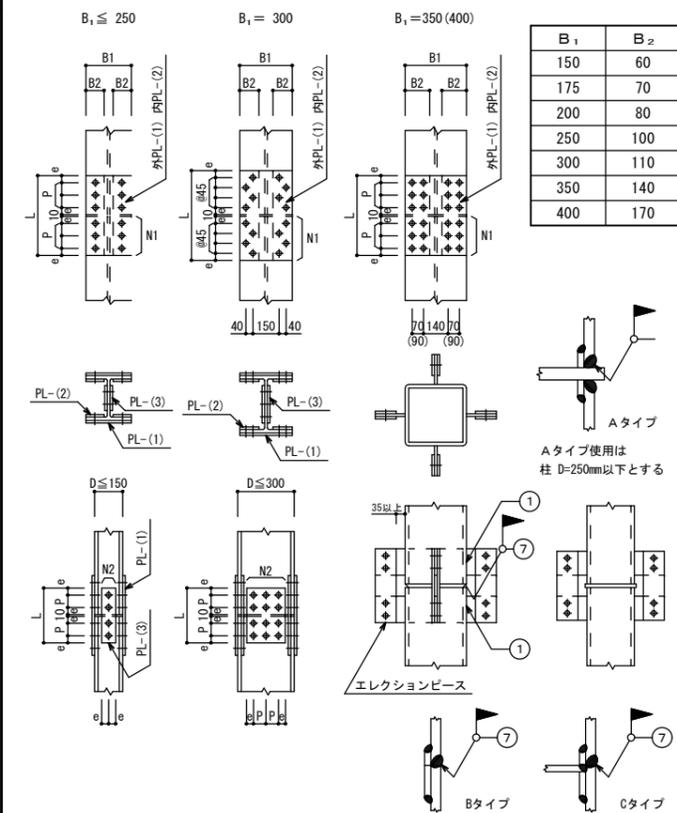
(4) ハンチ部の継手

フランジ及ウェブ厚の差のある場合



ハンチ勾配は普通1:4程度であるが構造図による
 r: 半径 t: 板厚

(5) 柱継手リスト



【注】 現場溶接は原則として超音波深部試験を100%行う

符号	部材	フランジ			ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径
設計図による。						

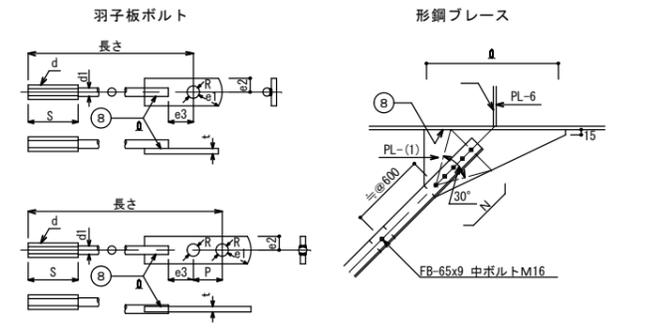
(6) 鉄筋ブレース (JIS規格品とする・・・JIS A 5540・・・1982/5541・5542・・・2003)

(a) 羽子板ボルト		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24	
軸径 d ₁	最大	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99	
	最小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77	
調整ねじ長さ	S	100	115	125	140	150	165	175	
取付ボルト穴径	R	13.0	17.0	17.0	21.5	21.5	23.5	21.5	
はしあき(最小)	(2) e1	35	40	45	50	50	55	50	
切板製	へりあき(最小)	e2	22	28	28	34	34	38	38
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき(最小)	e2	19.0	25.0	25.0	32.5	32.5	37.5	37.5
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
取付ボルト	ボルト端から取付ボルト穴心のあき(最小)	e3	47	52	59	66	73	70	
	溶接長さ(最小)	Q	40	50	55	60	75	85	
(2)	種類	JIS B 1186 2種高力ボルト (F10T)							
	ねじの呼び	M12	M16	M16	M20	M20	M22	M24	
本数		1	1	1	1	1	1	2	

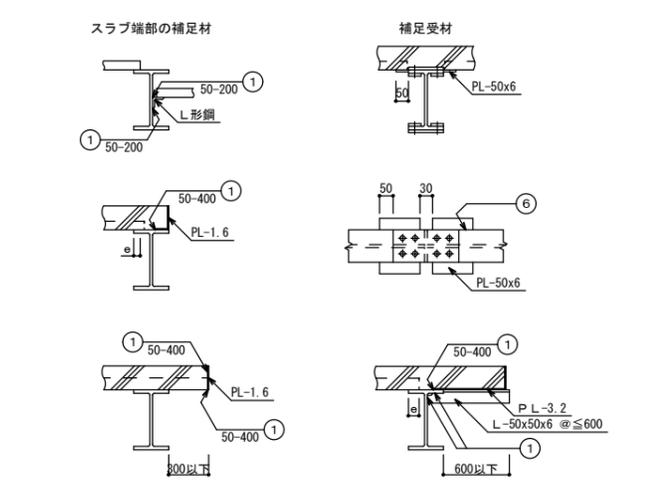
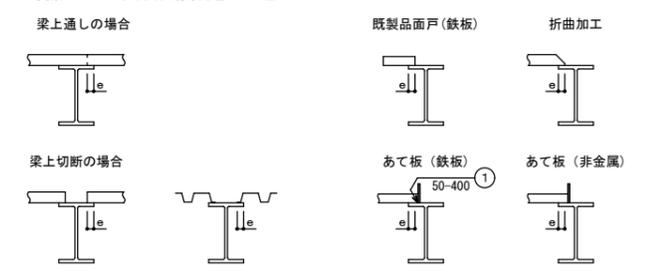
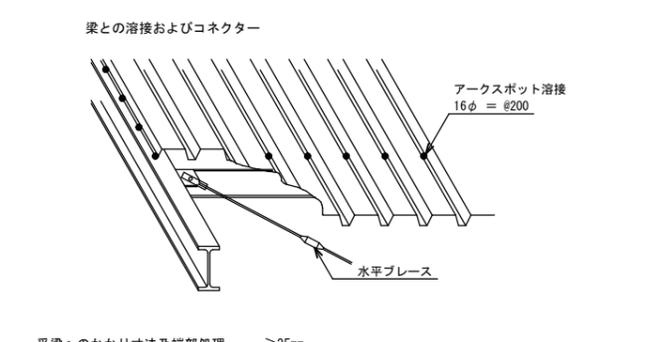
- 【注】 (1) e1, e2が確保されてれば形状は自由でよい
 (2) 羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取り付けボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする

(b) 形鋼ブレース

符号	部材	PL-(1)	N-径	Q
設計図による。				

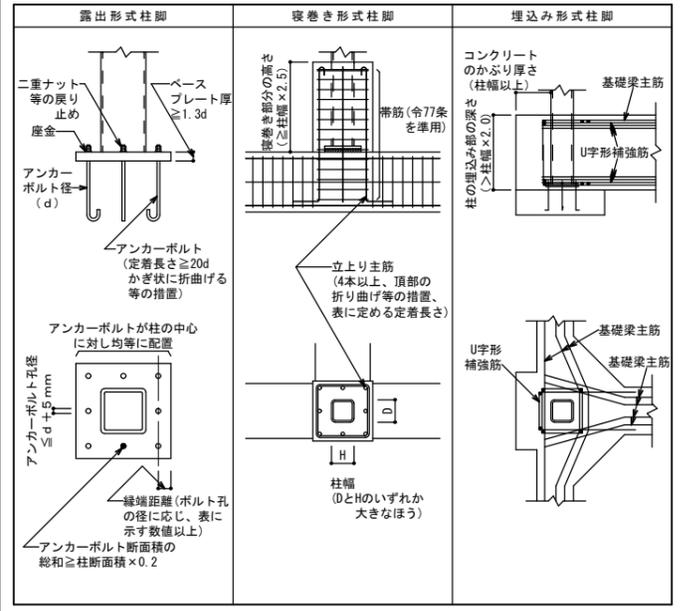


(6) デッキプレート (床剛性を考慮する合成床, 合成梁のときは構造図参照)



(8) 柱脚

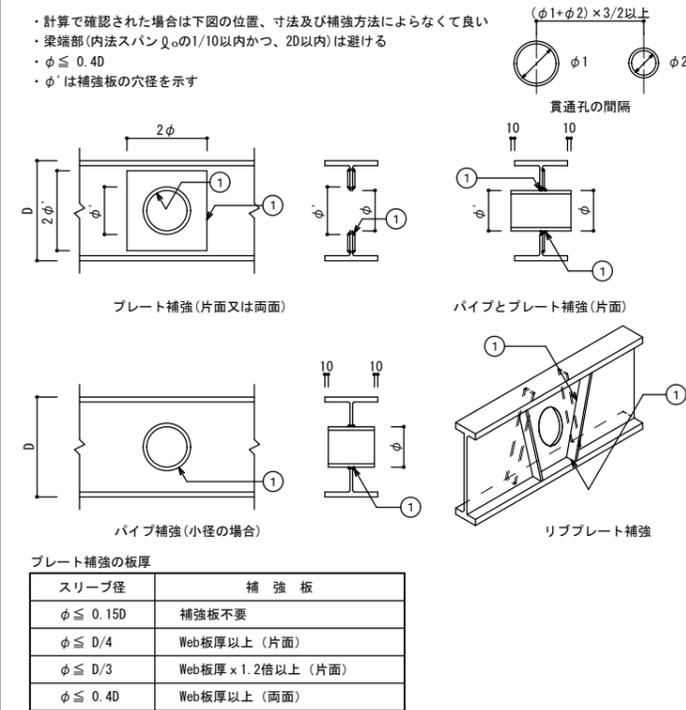
【注】 許容応力度計算を行わなかった場合の構造形式



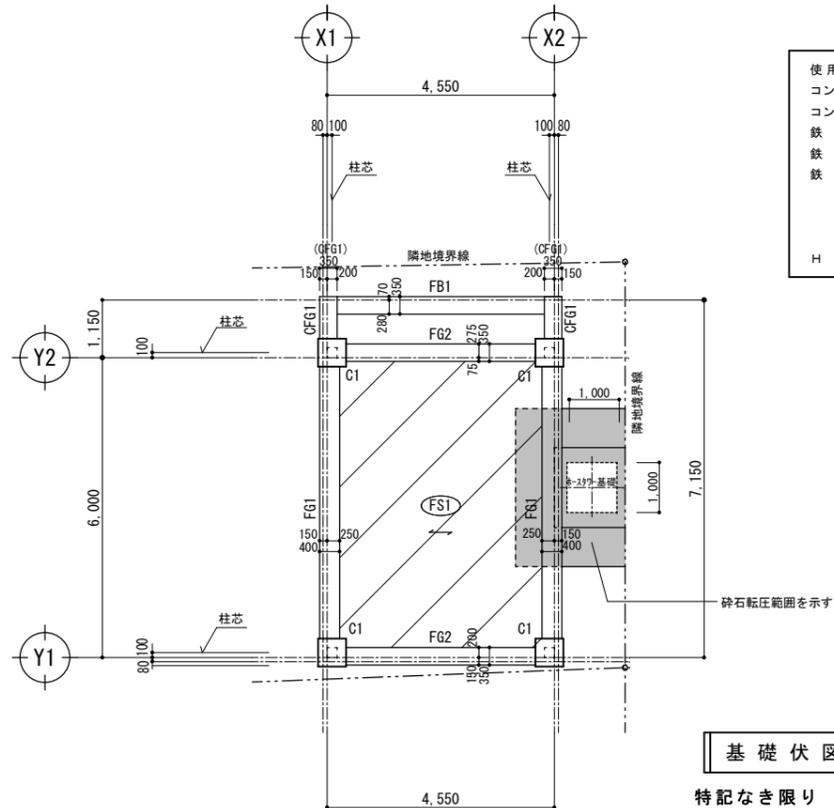
(9) 頭付きスタッド (JIS B 1198)

形状	スタッド材				
	呼び名	軸径 d (mm)	頭径 D (mm)	頭高さ T (mm)	溶接後の長さ L (mm)
φ13mm		13.0	22.0	10.0	50, 80, 100, 130
		12.7	25.4	7.9	
φ16mm		16.0	29.0	10.0	80, 100, 130
		15.8	31.7	7.9	
φ19mm		19.0	32.0	10.0	80, 100, 130, 150
		19.0	31.7	9.5	
φ22mm		22.0	35.0	10.0	100, 130, 150
		22.2	34.9	9.5	

(10) 梁貫通補強



スリーブ径	補強板
φ ≤ 0.15D	補強板不要
φ ≤ D/4	Web板厚以上 (片面)
φ ≤ D/3	Web板厚 × 1.2倍以上 (片面)
φ ≤ 0.4D	Web板厚以上 (両面)

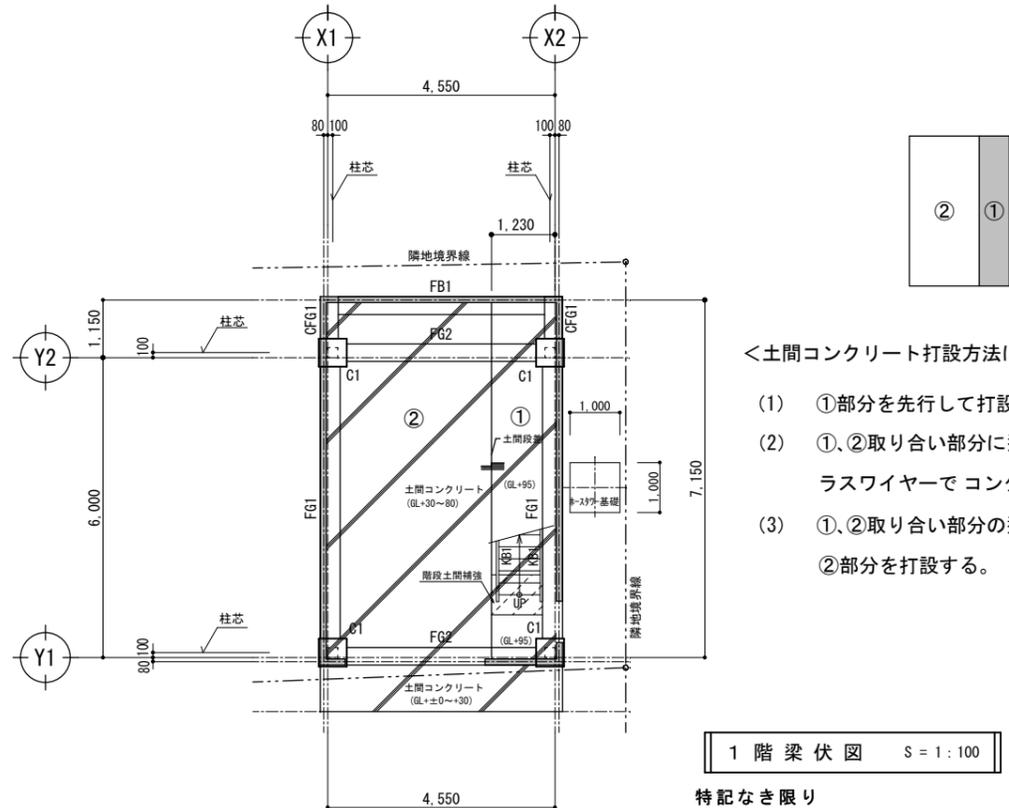


基礎伏図 S = 1 : 100

特記なき限り
 (FS1) 底版を示す。t=300 GL-700(スラブ)天端

使用材料	
コンクリート	F _c 21
コンクリート	F _c 18 (土間コ)
鉄筋	SD345 (D19以上)
鉄筋	SD295A (D16以下)
鉄骨	一般材 SS400, SN400B, SSC400
柱コラム材	BCR295
仕口材	SN490C (通シダイヤ)
鋼管材	STKR400
H T B	F10T・S10T μ=0.45

※ 設計地耐力 F=70kN/mm² (長期)

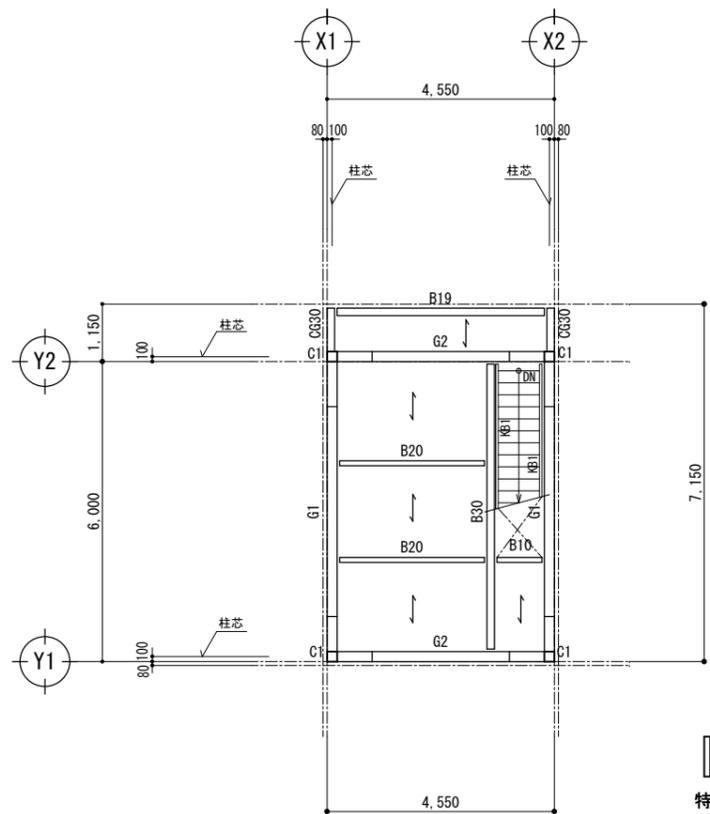


1階梁伏図 S = 1 : 100

特記なき限り
 土間コンクリートを示す。t=180mm
 地中梁天端 GL-200mm とする。
 B.PL下端 GL-170mm とする。

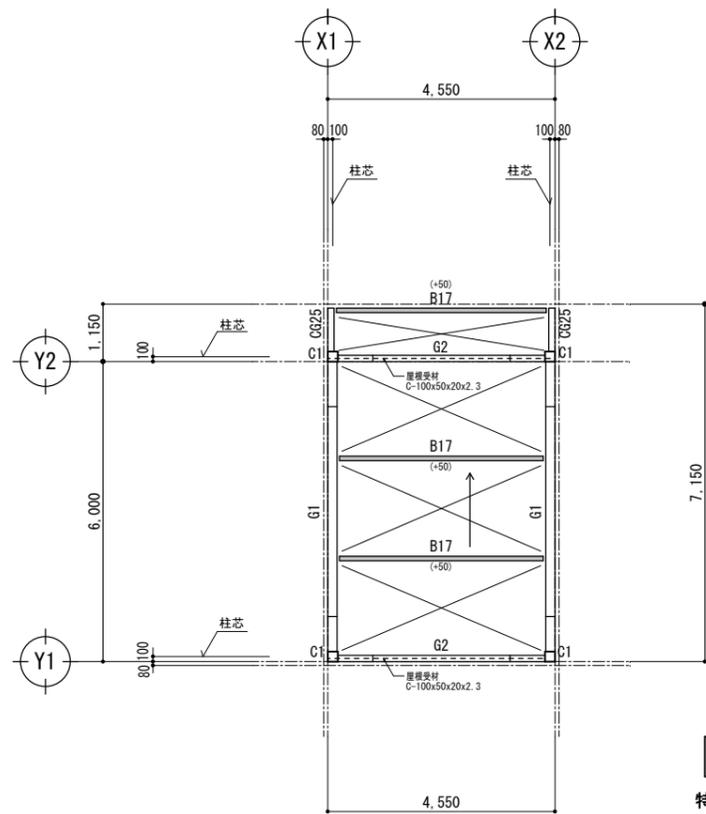
＜土間コンクリート打設方法について＞

- (1) ①部分を先行して打設する
- (2) ①、②取り合い部分に型枠を設置し土間配筋部分はラスワイヤーでコンクリートの流出を防止する
- (3) ①、②取り合い部分の型枠を脱型後に②部分を打設する。



2階梁伏図 S = 1 : 100

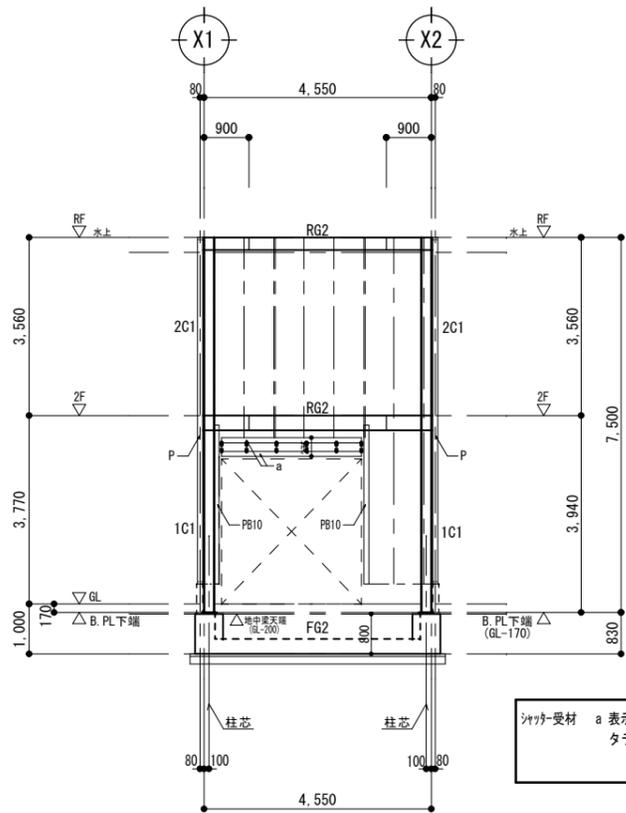
特記なき限り
 → デッキ方向を示す。(GL99-50-12)
 コンクリート: デッキ山上780mm (計 7130mm)



R階梁伏図 S = 1 : 100

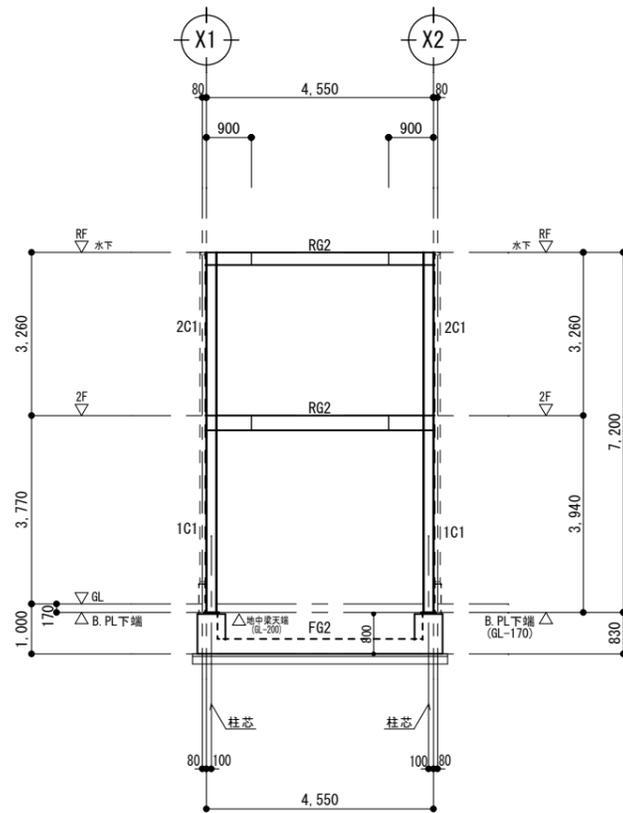
特記なき限り
 → 屋根: 折版 (カラーGL鋼板 μ -7 μ 付)を示す。(H=85,88 t=0.6)
 < 水平プレート T1 を示す。

摘要	月日		ESSE INC. 株式会社 イズ 甲府市飯田4丁目7-14 TEL 055 (226) 8888 (代) FAX 055 (226) 5727	一級建築士 長田 孝三 第123273号 一級建築士事務所 第1-031039号 E-mail: esse@coral.plala.or.jp	管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	北新分団本部拠点施設建設 (建築主体) 工事 基礎伏図、各階梁伏図	図面番号	S - 08
	作製	令和 4 年 12 月 15 日			縮尺	A-2 S=1:100						

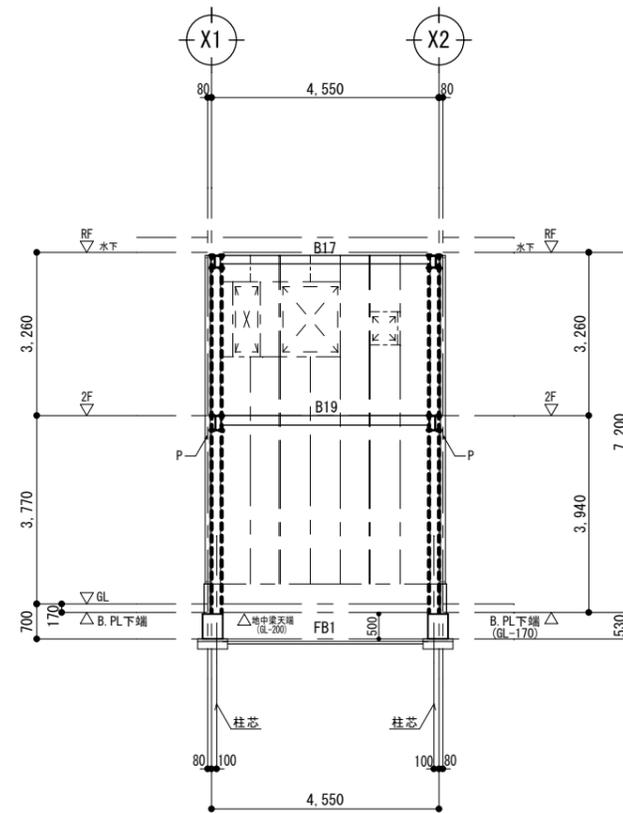


Y1通り軸組図 S = 1 : 100

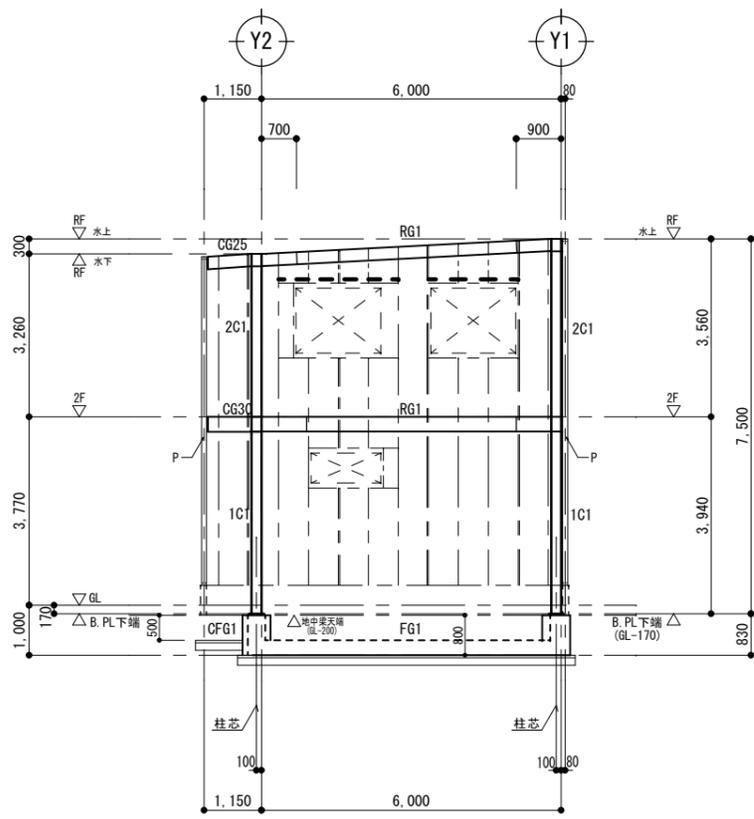
シャット受材 a 表示材 : □-100x100x2.3
 タテ材 : C-100x50x20x2.3 @600
 (庇受け材も同様とする)



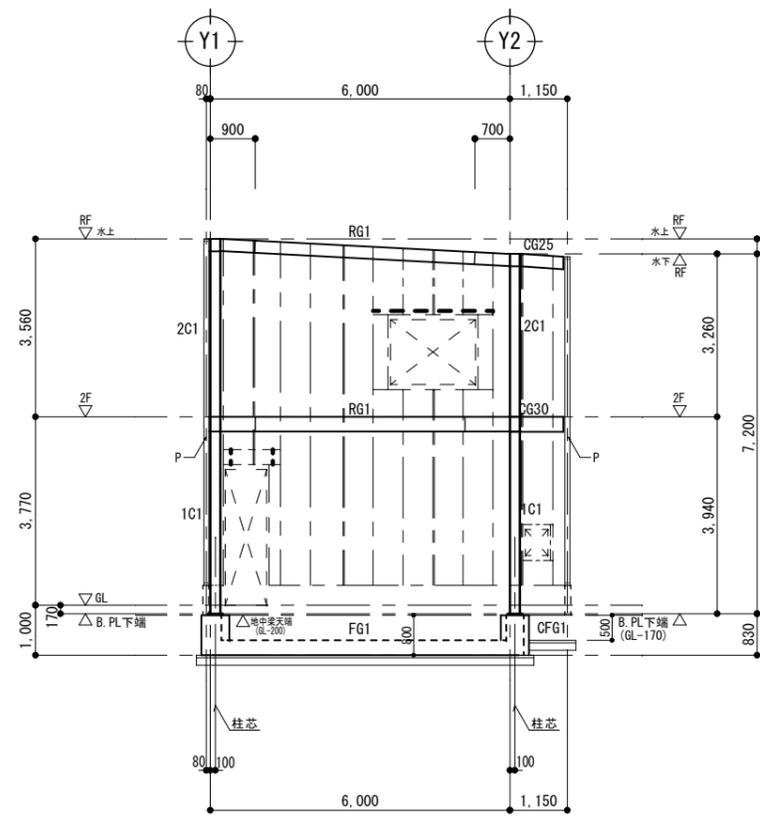
Y2通り軸組図 S = 1 : 100



Y2+1150通り軸組図 S = 1 : 100



X1通り軸組図 S = 1 : 100



X2通り軸組図 S = 1 : 100

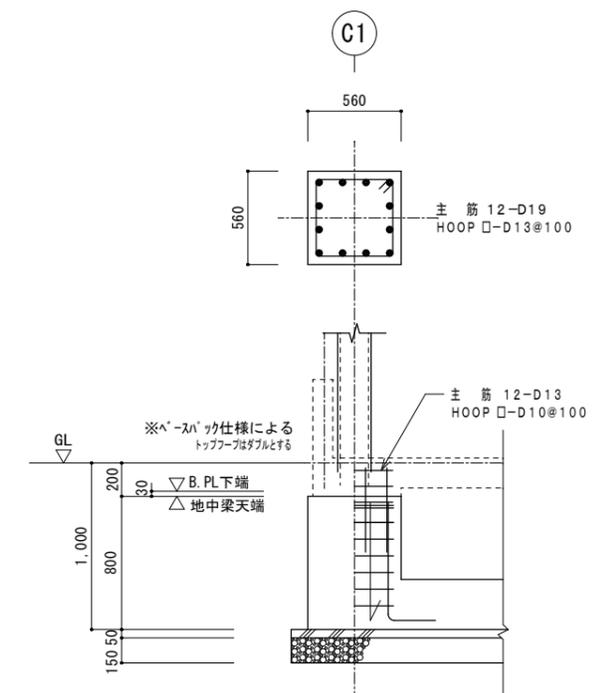
共通事項

- タテ脚線 2C-100x50x20x2.3 @1800
- タテ脚線 C-100x50x20x2.3 @600
- P表示材 □-100x100x2.3 (コーナー部)

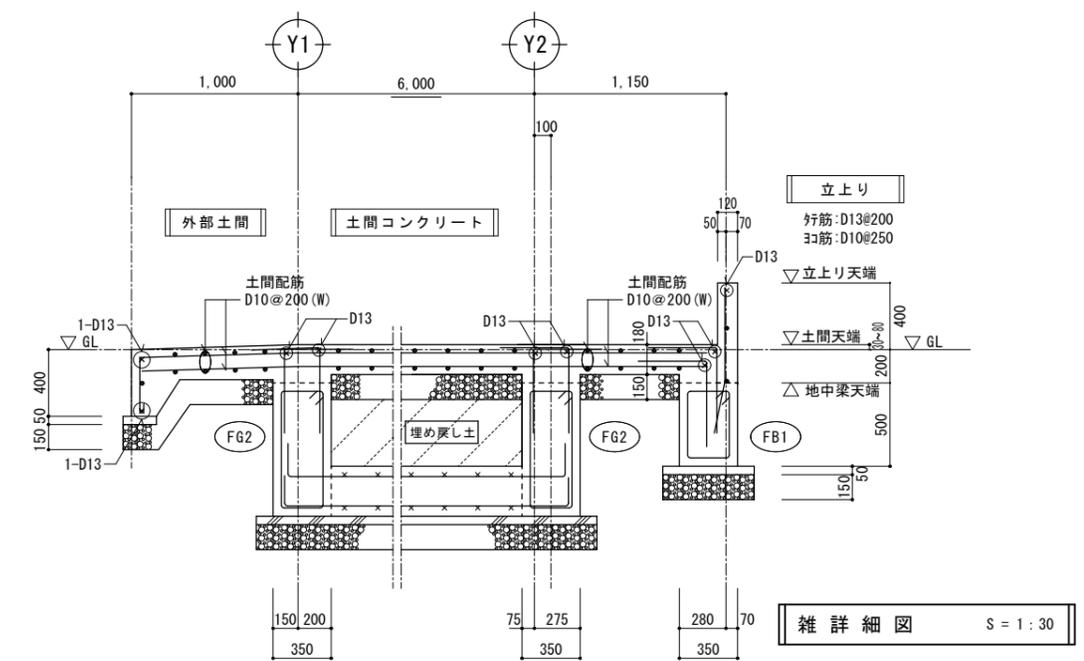
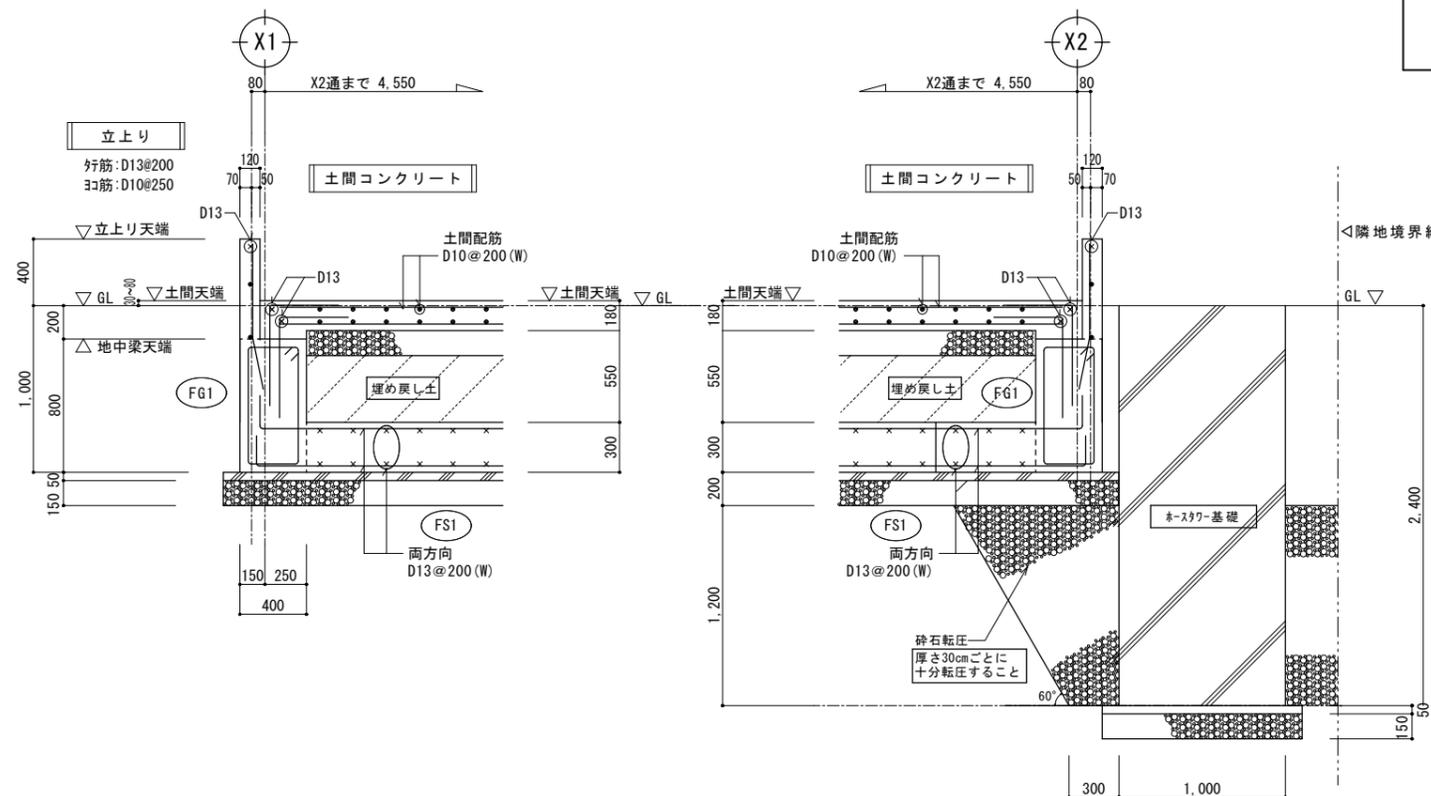
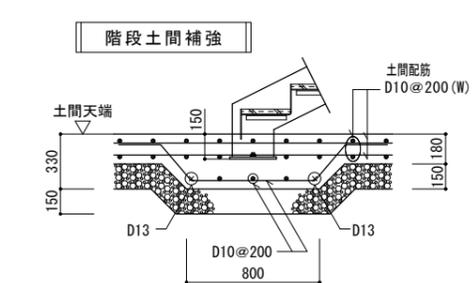
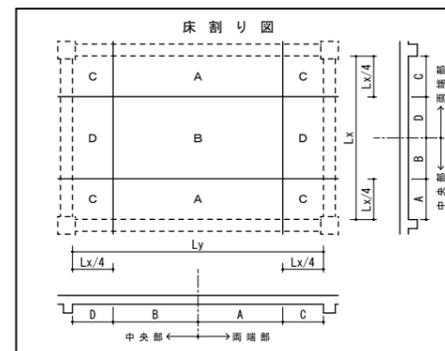
土台 C-100x50x20x3.2 とする。
 土台アンカーボルト M12 (L=150mm) とする。
 土台アンカーボルトの配置
 土台が切れる開口の両端 かつ @1,800 以下とする。

摘要	月日		ESSE INC. 株式会社 イズ 一級建築士事務所 第1-031039号 甲府市飯田4丁目7-14 TEL 055 (226) 8888 (代) FAX 055 (226) 5727	一級建築士 長田 孝三 第123273号 一級建築士事務所 第1-031039号 E-mail : esse@coral.plala.or.jp	管理建築士	検閲者	設計者	担当者	工事名称 北新分団本部拠点施設建設 (建築主体) 工事 縮尺 A-2 S=1:100	図面番号 S - 09
					作製 令和 4年 12月 20日	図面名称 軸組図				

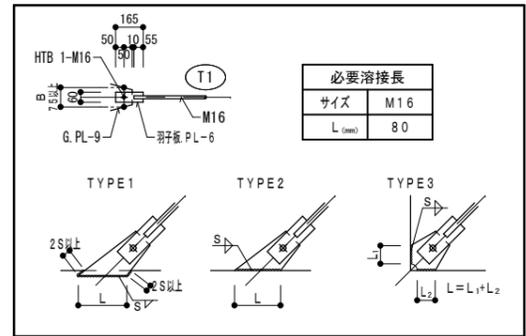
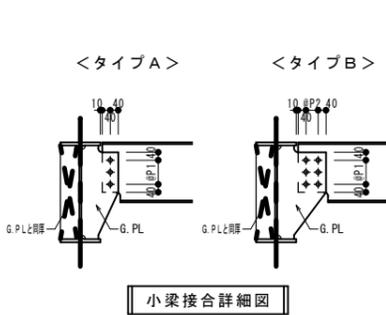
地中梁 リスト		S = 1:30		特記なき限り：巾止筋 D10 @1,000 以内とする。 (共通事項)：捨コンクリート t=50mm・砕石 t=50mm	
符号	FG1		FG2	FB1	CFG1
位置	両端	中央	全断面	全断面	全断面
断面					
上端筋	4-D19	6-D19	4-D19	3-D19	3-D19
下端筋	4-D19	4-D19	4-D19	3-D19	2-D19
スターラップ	□-D13 @200		□-D13 @200	□-D10 @200	□-D10 @200
腹筋	2-D10		2-D10	—	—



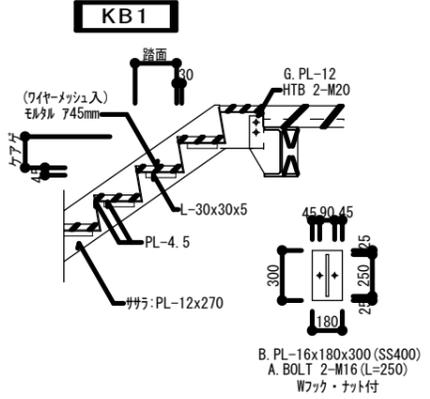
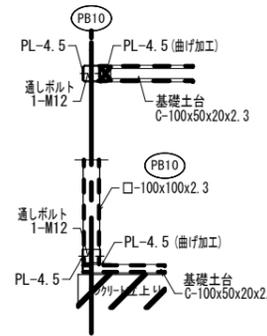
床伏図 リスト		短辺(主筋)方向配筋		長辺(配力)方向配筋		
符号	厚さ	位置	端部(A・C)	中央部(B・D)	端部(D・C)	中央部(B・A)
FS1	300	上端筋	D13 @200	←	D13 @200	←
		下端筋	D13 @200	←	D13 @200	←



部材 リスト		S = 1 : 30		特記なき限り		使用材料			備考
符号	位置	断面	小梁接合タイプ	G. PL	H. T. B	@P1	@P2	二次部材 : SS400, SSC400 とする。	
B30	全断面	H-300x150x6.5x9	A	PL-9	1x3-M20	60	—		
B20	全断面	H-200x100x5.5x8	A	PL-6	1x2-M16	60	—		
B19	全断面	H-194x150x6x9	A	PL-6	1x2-M16	60	—		
B17	全断面	H-175x90x5x8	A	PL-6	1x2-M16	60	—		
B10	全断面	H-100x100x6x8	B	PL-6	2x1-M16	—	60		
CG30	全断面	H-300x150x6.5x9	—	—	—	—	—		
CG25	全断面	H-250x125x6x9	—	—	—	—	—		
T1	全断面	JIS ターンバックル筋違 M16	—	PL-9	1-M16	—	—		羽子板. PL-6 詳細図参照 (下記)
PB10	全断面	□-100x100x2.3 (SKTR400)	—	PL-4.5	通しボルト 1-M12	60	—		詳細図参照 (下記)
KB1	全断面	PL-12x270	A	PL-12	2-M20	70	—		詳細図参照 (下記)
	柱脚	BASE. PL-16x180x300 A. BOLT 2-M16 (L=400) Wナット フック付							



必要溶接長	
サイズ	M16
L (mm)	80



X1通り鉄骨詳細図 S = 1 : 30

